

主法方製産場指図

刊行にあたって

平成13年より開始いたしました『鳥栖市誌』編纂事業は「多様な生活と文化」「人・物・技術の交流と広がり」をテーマとして作業を進めています。市誌本編はもとより、地域に重要な資料を掲載した資料編および資料等を元にした研究編の充実も編纂の重要な方針としています。

その一つとして、幕末の田代代官所副代官である「佐藤恒右衛門」が在勤中に記し、当時の代官所や田代領の様子がこまかに記録されている『毎日記』を資料編として刊行することとし、嘉永7年（一八五四）から安政4年（一八五七）までの前半部分を平成14年度『鳥栖市誌資料編第5集 佐藤恒右衛門毎日記』として刊行いたしました。それに引き続き、後半部分となる安政6年（一八五九）から文久2年（一八六二）までを『鳥栖市誌資料編第6集 続佐藤恒右衛門毎日記』として刊行することといたしました。

本書の刊行にあたりましては、資料の公開を許可していただいた対馬・醴泉院をはじめ、長忠生氏（鳥栖市誌執筆委員）松田杉枝氏（鳥栖郷土研究会）等、関係各位のご協力にお礼申し上げます。

今後も市誌本編はもちろん資料編・研究編の充実をはかりたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成16年3月

鳥栖市誌編纂委員長 米倉利昭

凡例

- (一) 原文に読点（、）および並列点（・）を加えた。
- (二) 振仮名のうち、平仮名は校訂者が一般読者の利便のためにつけたもので、片仮名の分は原本どおりである。
- (三) レイアウトは、できるだけ原本に近い体裁としたかったが、行下りは字詰めのため原本とは異なる。敬意を表する改行（平出）は、原本どおりとはせず、一般的な一字分を空にして前に続けた。
- (四) 送り仮名・仮名遣いは原本どおりとした。
- (五) 用字については次のとおりにした。

① 漢字は基本的には原本どおりとしたが、常用漢字にあるもの（近似字体を含む）は、新字体を用いた。

② ただし、人名・地名など固有名詞については、原本に記載してある箇所の字体どおりとした。そのため字体を混用する例がある。

③ 原本に一貫して誤用してある爪生野・祇園・佑筆の爪・祇・佑は、それぞれ瓜・祇・祐と正した。また、随所にみえる儀・議を示す「義」は原本どおりとし、傍注は一々施さなかった。「斗」は容量を示すもの以外は「計」を採った。

④ 原本にある異体・異字・略体・近世文書常用・一般通用などの文字で原本どおりの文字を用いたのは左のとおりで、他は正字体に直した。

并 俣 洩 祿 祇 兎 餅 曾 喰 富 椽 巾 （楯の略の場合「巾」より） ぶ （くさ） ぐ （音）

⑤ 変体仮名は平仮名に直したが、真仮名^{まがな}・平仮名^{ひがな}・片仮名については原本どおりとした。

⑥ 原本記載の「候」を示す「ㄣ」・「ㄷ」は、すべて「候」に統一し、疊字「々」は「々」とした。

付記 原本からの解説は前半は長忠生、後半は松田杉枝が行い、全体の校合は長忠生が当たった。

解題

対馬藩士の佐藤恒右衛門（一貫）は、飛地田代領の副代官（表役）として嘉永七年（一八五四）二月から文久二年（一八六二）三月まで田代に駐在し、その間、日記を認めている。これは帰国後も続けて晩年に及んでいる。原本は対馬市厳原町醴泉院れいせんいんに所蔵されている。惜しいことに若干の欠落があるものの、この『毎日記』は、激動の幕末期田代領の動きを知る上に重要な史料たる価値があると思う。

鳥栖市誌編纂委員会では、さきに、恒右衛門が田代着任以来、安政四年（一八五七）十一月までの分、つまり任期前半分を『佐藤恒右衛門毎日記』として刊行したが、今回は任期後半分を収載して『統佐藤恒右衛門毎日記』として刊行の運びとなった。原本は前刊分は豎帳たてぶちであったが、続刊分つまり本書収蔵分は半横帳に認めてある。

『毎日記』は、公務か公努にかかわるものが大部を占め、年次・月次の恒例化した行事、あるいは不時の領民間における事態への対応を筆まめに認めているから、代官所の動きや領内の事情がよくわかる。そして幕末期も年を追うにつれ、波乱の事態が出来しゅらうたいるようになる。前刊では田代領特有の秘事法門「新後生」の摘発、大量処罰という大事件がめぼしいものであるが、対馬藩として沿岸防備強化として大砲の鑄造、献納という時勢が反映した事態がみられる。しかし、おおむね静穏に打過ぎていたのに、突如として波乱を呼ぶ、きっかけが訪れる。

それは、田代領がかかわって用立てしてきた藩の借財を田代領限りで払い潰せ、という藩主の徹底であった（このところは原本欠落）。そして主法方設置、櫛蠟専売事業の強化、それが行きづまったところに起きた専売反対の百姓一揆、主法方が崩壊の途を辿る折柄対州表口シア軍艦打払いのための領民を率いての代官平田大江の対州出陣、そして代官罷免、改易關所をなり、田代領は代官空席の異常事態に陥る。代官補佐に徹していた佐藤恒右衛門も領政を双肩に担う羽目となる。

また、田代代官所の動きには、対馬お家騒動の成行がすぎさま反映し、それに対馬・田代を舞台とする仙八派の策動が影を落としている。それも『毎日記』の行間にみえる。

要するに、副代官佐藤恒右衛門が筆まめに認めた『毎日記』に、波乱に満ちた幕末期田代領の動きをみることができるのである。

目次

凡例

解題

1	安政六己未年	五月より九月迄	1
2	安政六己未年	從十月至十二月	61
3	安政七庚申年	正月より閏三月迄	99
4	万延元庚申年	四月より八月迄	169
5	万延元庚申年	從九月至十二月	195
6	万延二辛酉年	正月より(四月迄)	253
7	文久元辛酉年	七月より(十二月迄)	309
8	文久二壬戌年	三月より	343

校訂者注

付函

年表

安政六己未年

毎日記

五月の九月迄

佐藤

己未五月の

- 曾根崎村産科古賀玄壽、開業医師末席の礼席申付五月朔日
- 乞食体之者、姫方村灰小屋へ行倒同日
- 下毛村洪水、八尺四寸湛五月三日
- 手代仮役草野作之進、玄関番仮役八坂直藏、役義初而之受礼五月五日
- 下毛村洪水、老丈三尺一寸湛同日
- 御国尾崎村へエキリス船来同六日
- 於定様、毛利美濃守様へ御縁組被蒙仰同日
- 当年御参府不及旨被蒙仰同日
- 下毛村洪水、一丈一尺湛同八日
- 肥前鹿島鍋島熊次郎様御通行五月十日
- 御目付木村圖書様已下御泊同日
- 黒岩市兵衛、石州の帰ル五月十一日
- 瓜生野町次郎次・養父村伊左衛門・田代下町茂作・外町文助裁許五月十二日
- 田代直平裁許五月十三日
- 今町代吉裁許、長野村庄屋へ三ヶ年奴同日
- 両郡御備米之内千三百五俵御国送渡之儀達五月十四日
- 緒方仙八、濱崎出役申渡、含書渡同日
- 長崎の白水幾右衛門着五月十六日
- 御国送り御米配、且両郡御備米借入、御国送渡之事五月十七日

- 下毛村洪水一丈五尺一寸湛五月十九日
- 愛宕山使者入来五月廿日
- 櫻井孫平、濱崎へ帰郷同日
- 今泉村松隈怒助親類御叱五月廿一日
- 両郡御備米作食拝借初度願同日
- 諸職誘役・製産掛、新二被相設五月廿二日
- 下毛村洪水一丈式尺九寸湛同日
- 御主法方蠟、場粉部屋上棟五月廿四日
- 谷口喜十郎、留役所書手召放五月廿八日
- 使番藤太、御扶持召放、五反田村庄屋田中庄平へ十五ヶ年切奴申付五月廿九日
- 緒方仙八、濱崎へ帰郷六月朔日
- 筑前様御使者、田代へ引受方示談整六月二日
- 長崎御奉公支配調役下役飯山鑑之助、長崎下り止宿六月三日
- 同調役並小柴喜左衛門殿、家族召連之侍病死之事六月三日
- 古賀勘介父與左衛門、製蠟場へも罷出候様申付六月三日
- 使番平助、下横目兼勤、製蠟場之内へ住居申付同日
- 大下毛村水腐二付、作食用米百俵拝借
- 古賀勘介拝領奴良七、奴号差免、製蠟場拝申付六月四日
- 瓜生野町判兵衛、御主法方手附申付同日
- 使番三平、下横目兼勤・御主法方引切勤申付同日
- 下毛村洪水、一丈式尺式寸湛六月六日

- 於民様・於定様、御縁辺被為濟候付、江戸表へ四百五十両仕向之義、御国へ御差函
- 御国尾崎浦へ来泊之英吉利船退帆之段、御左右達同日
- 両郡宗門改、両役手引難相成候付、手代役・祐筆・目付役出役申渡六月八日
- 緒方連、手代役助勤・目付統取御断願出候様差含同日
- 下毛村洪水出戻り一丈式尺式寸二而湛六月十三日
- 神辺村磯兵衛小屋焼失同十四日
- 古賀盛太祐筆仮役、高雄敏之助作事掛仮役、櫻井孫平・大石良輔山方仮役同十五日
- 橋本雄吾祐筆見習同十五日
- 小人種八使番繰上、小人傳介本株、田代町清右衛門小人定御雇申付同日
- 野口村光蓮寺看坊雲月住職申付同十七日
- 長崎調役中臺信太郎殿、長崎下り止宿同十九日
- 同下役橋本良之進・吉田次郎同断同日
- 土用入六月廿一日
- 筑前様御使者伴新殿、御茶屋入来同廿二日
- 長崎調役並小杉右藤次・同下役山 米三郎、長崎下り止宿六月廿六日
- 白水幾右衛門、長崎へ出立同日
- 重富鼎住居并塾、昌元寺山へ取建同日

- 大石多兵衛・荒木安易、御国へ歸郷六月廿八日
- 緒方仙八・緒方登次・永セ大五郎、両郡へ歸郷同廿九日
- 長崎御奉行支配調役並沼間平六郎、長崎下り止宿六月晦日
- 昌元寺町仁平、御主法方使番召抱七月朔日
- 長崎御奉行支配調役下役七人、長崎下り止宿同四日
- 下毛村洪水、壱丈三尺八寸湛七月五日
- 地役中宗門改七月六日
- 但、奥役不參也
- 園部下村茂吉悴浅吉溺死七月六日
- 七夕奥役不參
- 大石多兵衛・荒木安易、於御国結構被仰付候御礼申出七月七日
- 古賀玄壽、産科相続御礼同日
- 地役中之内、役義初而之礼同日
- 下毛村洪水、壱丈六尺湛同日
- 但、定尺二不至候へ共、御救握り飯与
- 義倉米之内五百俵余、作食貸渡同日
- 田代村茂八、令出奔居候処、佐嘉領二而相果、村送二ノ送り来七月十二日
- 御主法方手附益介・森八・伊助・判兵衛、御扶持被下七月十三日
- 去ル四日 公義御役人御止宿之節、公役筋罷出候者共、等閑之義有之叱り同十七日
- 御主法方召仕候人夫賃錢増同十八日
- 右同断召仕職人賃錢増同十一日
- 御主法紙漉棟梁四人申付同廿日
- 於濱崎鉄山御取開、且両郡銀札遣被仰付候段、御左右達七月廿三日
- 爰元皿山へ御国送り水干白石粉一万斤、運賃・船賃於爰元取替候様との事七月廿三日
- 宮浦東村庄屋門司武四郎義、兵庫妹ちよ無切手長崎へ罷越候付、叱申付同日
- 祇園社二をゐて悪病御祈禱七月廿四日
- 養父村喜右衛門、上納米疎略、其上不埒筋有之、村方胴柱二而二日肆申付同廿八日

五月朔日 雨天

、当日為祝辞地役中并青木文造・両町役罷出候付、例之通於机之問受礼

、御用日二付、会席へ罷出、内山も出勤有之

、曾根崎村古賀玄壽義、亡父圭琢義、先年産科業相立、医師中依願礼席をも申付置候処、其後令病死、玄壽義若年二付、業方令熟達候ハ、開業礼席可申付旨相達置候、然処、段々年齢ニ罷成、業道令上達候付、開業為仕度旨、役医中且庄屋よりも以書付願出候付、則願之通申付、礼席之義も親代之通医師末席ニ申付候旨、手代中へ及書達

、牛原村皿山恒四郎義、居宅を出火及焼失候付、去月廿六日禁足申付置候処、畢竟火之元大様故之義不届ニ候得共、以用捨禁足差免候旨及書達

、両町 祇園会之節、近年之通、通り掛り旅役者雇入、見セ物興業為仕度旨、町役を伺出候段、手代役緒方仙八を申出候付、聞届

、永吉南村庄屋長城九郎倅卯一郎義、当年十七歳ニ罷成、庄屋之勤向為見習度之旨、大庄屋野田倅一郎を願出候段、緒方仙八を申出、聞届

、姫方村抱本郷原灰小屋へ行倒もの有之、取糺候処、肥後国相良領 郷郡荒田村百姓源助弟倅八藏と申者、在所致出奔、父子一同乞食いたし、所々致徘徊居候処、八藏義病氣相煩、終ニ相果

候付、御国法之通御取計被下候様、親源助を相歎候段、庄屋を及案内、目付役助勤橋本雄吾為見分差越候処、病死無相違旨申出候付、最寄墓地へ取置候様相達

五月二日 雨天

、昨日を之降雨にて下モ村洪水、今申中刻迄水量木八尺迄出、未夕出増候段、水屋・高田庄屋を案内申出
但、当初而之出水也

五月三日 雨天

、今朝緒方織衛・岩谷卯佐美追々入来、昨日下モ村廻に見聞之模様中聞

、下モ村洪水、夜前亥上刻迄四寸出増、同刻水量木八尺四寸迄出、即刻引口相立、今朝辰上刻迄川内江引落候段、案内申出

、御主法方会日二付、奥役同然罷出

、今朝を之降雨にて下モ村洪水出戻、未之中刻迄出、未夕出増候段、案内申出

五月四日 雨天昼後晴

、下モ村洪水、今朝辰上刻迄水量木壹丈四寸迄出、いまた出増候旨、案内申出

五月五日 晴天

- 端午之為祝辞地役中已下罷出候付、某麻上下着出席受礼
- 手代中且格分之面々机之間次二折廻列座、同所上之間へ出席受礼、筆口も端午之御祝詞申上ますと申出候、目出度と挨拶
- 御扶持人中、大廻船差引役青木厚三郎、表本座次之間へ折廻り列座、右同断

但、厚三郎義幼少二付、不罷出

◦東明館訓導師青木文造表二ノ間へ罷出、披露手代役緒方仙八

◦生子養育差配役、右同断 今日一人も不罷出

◦役医中、右同断

◦同格中、右同断

◦郡目付中、右同断

◦留役所書手谷口喜十郎、玄関之間も右同断

但、禁足中二付、不罷出

◦御主法方書手篠原崎藏、右同断

但、佐嘉へ召仕置候付、不罷出

◦買物番喜左衛門、右同断病氣不參

◦三組之者共、内玄関之間へ罷出、机之間へ出席受礼

但、勝手口も祝詞申出来候へ共、御改建後如此

◦馬医江崎吾七郎 病也 表二ノ間へ罷出、披露手代役緒方仙八

◦同格源四郎、右同断不參也

◦田代町役中、右同断

◦瓜生野町役中、右同断

◦木山口別当櫻井英治義、生子養育差配役二付、此所二不罷出

◦同格櫻井恒四郎、前二同断

◦三郷大小庄屋中、牛原河内山守弥一郎、庄屋格中、右同断

◦庄屋子供中、玄関之間も同断 今日一人も不罷出

◦右畢而御本家へ罷出、寄合之間二をゐて奥役面会、互二祝詞申述、奥役も口祝被差出候付、拙者も奥役へ挟之、同人も拙者へ

被挟之、引統賄役已下手代中、格分之面々、用銀掛・留役・祐

筆・孝鑑方・玄関当番迄、奥役も口祝遣之

◦御茶屋財部・古川且御賄へも祝詞として相越

◦草野作之進義、去秋御国逗留中、二代御徒士立身被仰付候御礼

申出、大江・恒右衛門御広間二ノ間へ出席謁之、披露手代役緒

方仙八

但、奥役八二ノ間南向、表役北向二着座、作之進義、三ノ

間二罷出

◦於寄合之間、作之進并親類之面々一同罷出、受礼相濟難有旨申

出、披露緒方仙八

◦就右、奥役も作之進へ口祝被遣之

◦作之進も扇子式本、水引結熨斗包添、台所も以取次差出

◦右畢而左之通、役義初而之礼申出

手代仮役

御主法掛引切兼

草野作之進

玄關番役

八坂直藏

右之面々、寄合之間へ一人ツ、罷出、役義初而之礼申出、披露手代役緒方仙八

、昨四日辰上刻案内申出候洪水、今五日辰上刻迄老尺七寸出増、同刻水量木一丈三尺老寸迄出、未夕引口相立不申段、水屋・高田村庄屋と案内申出

、佐嘉表青木小藤太と手代中江之書状差出、遂披見候処、先月廿七日川方役面会、頃日持越之手覚手続書、其筋江差出返答有之候様取計方頼入、其後昨日迄何等之様子も無之由申越

五月六日 晴天夜二入雨降

、御国元平田宮内殿と四月十九日付御状相達候処、同月十七日英吉利船一艘尼崎浦へ令繫船候付、長崎御奉行江被及御届候付、聞役江之御状被差越候間、急飛を以差立候様との義被仰下

、御旗奉行唐坊直衛義、与頭助勤被仰付置候処、病氣依願助勤被差免候旨、蕃建主税と四月十二日付、以書状申來

、江戸表佐須伊織殿と左之条々被仰下
三月十六日依召 御名代松田織部正様御登 城之処、兼而御願被及達候通 於定様御事、安房守様御嫡毛利美濃守様へ御縁組被為仰候段、同月廿日月を以被仰下

一当年 御參勤御順年二付、御時節之儀、以御使札被及御伺候

処、当年不及御參府旨、御老中連名之以御奉書被為蒙仰候段、

四月十六日付を以被仰下

、三郷村々々作食用として義倉之内米六百俵拝借願出、今日役々立会藏出取計候段、届申出、就右、藏錠前切封鍵之取扱、目付役助勤青木藏太例之通也

、下モ村洪水、今六日辰上刻迄式尺一寸引、同刻水量木一丈老尺迄引落候旨、水屋・高田両村庄屋と案内

五月七日 雨天夕方晴

、御主法方会日二付、奥役同然罷出

、下モ村洪水、今朝迄川内へ引落候段、水屋・高田両村庄屋と案内申出

、手代役青木小藤太、御主法方書手篠原崎藏、使番平助、川方内談役磯野孫六、佐嘉と帰郷いたし候段、届申出

、大坂廻米船引留、銀主法外之挙働、佐嘉役筋二をみて八御借金埒付不申候而八取扱当惑之次第、書状を以返答有之、永瀧忠兵衛・井手善兵衛と手廻之取計不致旨、佐嘉役所へ申立候書付をも川方役と相渡候付、受取届候由にて小藤太と差出、遂披見

五月八日 陰天

、昨日之降雨にて洪水出、昨夜亥下刻迄老丈老尺出、即刻引口相

相立、今八日辰上刻迄式尺一寸引、残水量木八尺九寸迄引落候段、案内申出

御用日二候得共、差掛候御用無之寄合欠席

五月九日陰天

啓祐院様御忌日二付、奥役同然、昌元寺へ参詣仕

下モ村洪水、夜前亥刻迄川内へ引落候段、案内申出

目付仮役大石良輔、使番三平義、諸富へ召仕置候処、帰郷之義相達置、今夕引取候段、届申出

町役格北村喜兵衛義、長崎へ罷帰、御徒目付清水疇太郎殿旅宿一条、町役とも不都束之応対断として御屋代御用達芝山平三郎同道、疇太郎殿へ罷越候処、無異義断相立、道中旅籠金百疋被相与候由、手代中へ申出

御目付木村圖書様、当月七日長崎御出立、明十日爰元御泊之積二候段、長崎役へ書状相達

鍋島熊二郎様、御在所へ御暇被蒙仰、明日爰元御通行、裏木御昼、神崎御泊り之様、御先触相達候段、町役へ申出

但、熊次郎様へ肥前様御分家鹿島様之由

御目付木村圖書様、御徒目付兩人、御小人目付五人、明晚爰元御泊之先触、夜二入相達、町役へ届申出

五月十日 雨天

鍋島熊次郎様、今辰之中刻、爰元人馬繼にて御通行有之

但、小休無之候付、奥役御機嫌伺等無之

帰府御目付木村圖書様、今晚爰元御泊り二付、町口迄御出迎、奥役被相務

朝鮮胡桃子松実一箱

鶏卵 一箇

木村圖書様

豎御目錄添

右、今未之刻過御茶屋へ御着二付、右之通被遣之、拙者麻上下着御使者相勤、御取次面会、御口上申述差出候処、奥へ入、頓而罷出、御直答可被申述、御音物之儀ハ御用先キ二付、何方様へも及御断候間、可然心得候様申聞候付、国元へ可申越旨返答、暫有而御用人罷出、罷通候様との義にて同人誘引、圖書様本座南向御着座有之候付、次ノ間中程へ御礼申上候処、当所止宿二付、御丁寧御取暖被下、辱仕合奉存候、御国元へも宜くと御挨拶被仰聞候付、御辞義仕、退去

但、御使者太儀之段御挨拶有之候得ハ、御用人へ向、御言葉被下難有旨申述候格二候得共、当せつ無其儀

御徒目付

木村李之助殿

旅宿(原本陣以下同じ)町本陣

佐藤真三郎殿

旅宿 長崎屋

金式百疋充

附目錄

のし包添

御小人目付

野田林太郎

三浦龍次郎

塩澤彦次郎

旅宿 肥前屋

平岡善三郎

神尾次三郎

旅宿 小松屋

入梅
同十三日 陰天

御用日二候得共、差掛候御用無之、寄合不致也

瓜生野町次郎次義、先月十一日禁足申付置候、其次第八兼而質

屋世業罷在候処、去ル巳年八月、養父村直右衛門と同村伊左衛

門を以蚊帳式張致入質、銀札式拾壹匁貸渡置、其後質札令紛失

候由承り、直右衛門御国渡留守中、伊左衛門をかたらひ、蚊帳

之儀ハ質札持參候者へ相渡候旨申偽、自分引受充払罷在候処、

当春直右衛門帰郷之上、右始未聞糺、入質之儀ハ真木村源四郎

外ニ知ルものも無之候間、同人所業共ニハ有之間敷哉と下墨さげすみ

居候処、右質札見出候付、源四郎義身晴之為次郎次宅へ罷越、

去年春質札持參にて蚊帳受取候者相尋候処、不分明之申分二付、

追々折渡之末、四月九日為差詰又々罷越候処、次郎次義、田代

町茂作・文助等無頼之者を相頼、事柄押付候心得として終ニ及

口論、文助義源四郎を散々令打擲候段相聞候付、以役筋遂吟味

候処、無相違令白状候、全体次郎次義聊之利慾ニ迷イ限月中

伊左衛門相談之上不埒を企、剽源四郎疵付候程打擲ニ逢候節、

其場不居合なと申偽、重々不埒二付、嚴重申付方も有之候へ共、

各別之慈悲を加、直右衛門と相預候品通之蚊帳式張本主へ差

返之上、過料拾貫文申付、禁足差免

但、本文之蚊帳差返候ハ、直右衛門とハ巳四月と元利成立

之銀子質札相添、次郎次へ相渡候様申付

右之通被遣之、前以宿亭主を以差出、拙者義肩衣着旅宿江見廻

ニ罷越、いづれも対面之上御礼被申聞

供廻例之通也、玄関番八坂甚八、鍵小人柳吉、御音物宰領御門

番茂右衛門罷出

帰宅之上、玄関番已下へ中酒ニ而飯振廻

五月十一日 晴天

木村圖書様、今朝御発駕有之、町口迄御見送奥役被相務

地役中、夜白相詰令苦勞候付、今日休日申渡

御産物方下代五兵衛、博多へ罷越、財部へ御用有之、昨日爰元

へ罷越候由、対面致ス

黒岩市兵衛、石州と帰り来

五月十二日 陰天

、養父村伊左衛門、右同断、直右衛門頼二依、質札令紛失候付、書付を以請引仕呉候様次郎次へ申談候処、質札紛失之上ハ伊左衛門へ錢四百文可遣候間、入質之品ハ質札持参候者へ相渡候振二いたし候様申聞、再度相談二任、錢四百文貰請候処、当三月末比、直右衛門ハ蚊帳之義相尋候付、次郎次ハ質札持参候者へ相渡候段返答之趣申聞、其末追々入組相生候段、僉議之上令白状候、此もの義、聊之銀錢ニ迷イ悪事ニ荷担手入を生候重々不届二付、急度申付方も候へ共、各別之宥免(格以下同)を加、科代夫三十人申付、禁足差免

、田代下町茂作義、先月九日於瓜生野町、真木村源四郎と及争論召捕入牢申付、以役筋遂僉議候処、兼々次郎次懇意二付、養父村直右衛門入質蚊帳一条取揃方頼を受、田代外町文助同然二罷越、源四郎応対之末及口論候央、文助義、源四郎を令打擲候段申出候、全体入組筋取喫方ハ双方折合之道可令勘弁之処無其義、元来次郎次義利慾ニ迷、不法之次第心得間違も無之、此もの義、平素氣随きずいものにて良もすれハ喧嘩口論等ニ相携、此節之一件ニ至不埒不届二付、急度申付方も有之候へ共、各別之以用捨科代夫五人申付、出牢差免

、田代外町文助義、右同断源四郎を及打擲候段相聞候付、召捕入牢申付、以役筋及僉議候処、茂作同然源四郎及口論候央堪兼、源四郎を無体及打擲、其場有合之砥石を天窓ニ打付候段令白状、此もの義、平素人柄不宜、右様之場ニ立入、人命之大切も不弁、

手過之挙働不届至極二付、嚴重申付方も候得共、各別之慈悲を加、科料五貫文申付、於札之辻一日晒し、出牢差免

、真木村源四郎義、畢竟不勘弁として打擲ニ逢、手入を掛候へ共、外ニ悪事も無之候付、不及沙汰旨申付

、田代町直平義、当正月同町又平宅ニをゐて醉中、刃物にて荒廻り候聞有之、召捕入牢申付置、以役筋遂吟味候処、此者義、兼々心得不宜、先年令出奔、其後先非を悔、立帰相 帰参申候付、親類ハ追々心添もいたし候義と相聞候処、去冬西清寺へ盗人入候処、若ハ直平共ニハ無之哉と風聞有之候付、又平義、縁類之者二付、右始末申聞候を残念存、是非取糺呉候様、又平異見を不聞入荒廻り候へ共、醉中全不相覚旨申出、此もの義、平素身持不宜所ハ悪説を受候而已のみならず、令酒狂候段不届二候へ共、外ニ悪事無之相聞候付、慈悲を加、出牢之上、科代夫十五人申付

、長野村今町代吉義、去ル三月瓜生野町出火之節、盜賊体之者式人同道令徘徊候付、召捕入牢申付置、及吟味候処、此者義、潜二久留米江罷越、綿打拵等仕居候処、致小盗逃去、其後所々徘徊せしめ博多ニ而被召捕致入牢、去ル二月末出牢仕、外ニ不正之者兩人同伴御領内ニ罷越、物貰等仕、其俣同町へ参居、決而御領内ニ而盜等不致旨令白状、右様不手数ニ而自偁令旅行候而己ならず、他領ニをゐて致盜不正之もの同道御領内へ立越候段、重々不届二付、同村庄屋富次郎へ三ヶ年限奴ニ申付

御主法方会日二付、奥役同然罷出

五月十四日 雨天

爰元昨年之御貢米千三百七拾五俵、御国へ送残り有之候処、追々御米繰差支之段ハ申来居、其中今度尾崎村へ異船相越、数日致繫船候趣相聞、御国元御心遣之程深察之義ニ付、御貢米急ニ仕出可取計候処、面り相応之借船も無之、殊ニ大廻り仕出候而ハ急間ニ逢兼、彼是心配之事ニ候、就夫松浦・怡土両郡非常御備米之内千五百俵、作食用貸渡之為、当時現穀相備居候内千三百五俵、此節御国へ早急送渡候様取計、両郡作食用之儀ハ例年之時月買米を以貸渡候歟、代金を以貸渡候歟、両様之内郡方無差支様渡可被下候間、右之趣大小庄屋中へも懇ニ相達、御用便之道可取計旨、手代中へ及書達

手代役緒方仙八義、明十五日出立、濱崎へ出役申渡、左之通含書相渡

御国御米繰御心遣之様深察候付、両郡非常御備米之内千三百五俵、爰元御貢米振替ニ^{して}早急送渡方及書達候趣、体認之通

二付、事情郡方へも懇ニ相達、濱崎廻り合之舟へ積入、一日も早く送渡方三沢茂作へ可被申談候

一今程非常御備米現穀御囲有之分千五百俵ハ作食用貸渡之筈ニ有之候を、右之内千三百五俵御国送り取計候得ハ、定例当五月作食貸渡候五百俵高不足之分、買米を以貸渡候共、又候郡

方時宜ニ依代銀を以貸渡候共、郡方無差支様御渡被下度、依之右米代船賃共ニ田代札千貳百拾壹^貫文、金ニノ百七十三兩貴殿へ附託差越候条、於彼地茂作ハ素り庄屋・頭立之者共申談、米買入方可被相達候

但、札物にて米買入難届義も候ハ、両郡も当月取立前之正金を以振替可申外無之候へ共、可成丈ハ札物にて買入、正金ハ爰元へ送越候様可被申談候

一紙漉方御主向先般申含候通、頃日郡方御請之義ハ承届候処、今度送越候白保見本之儀、全体漉方手薄く盤も小く仕立方ニ至隔藁沢山ニ而目方ニ相拘、於上方極而不向ニ可有之、此節之仕立方ニ而ハ不宜候間、唐津御仕組之白保上中下別、手筋を以取寄見、上品之通漉立相仕立候様、茂作談候上、掛り庄屋共へも可被及懇達候

一当冬納古献金之儀、旧臘先納申渡、依願猶予いたし置、先日大庄屋市丸喜八郎此元出郷之節、当節急納方相含置候処、当月中旬より来月三来月三度ニ献納之義、帰服能御請申出、奇特之至承届候、就夫右金子之義ハ正金にて取立置候様茂作江可被申談候、尤紙漉立之儀ハ八月ニ不相成ニ而ハ漉立不相成趣

二付、右取立之金子ハ早急此元へ可被送候、紙漉入目其外彼地入用之分ハ見合仕向可取計候

一鉄山御取開方ニ付而ハ、薪等買入之儀ハ程之知レたる義ニ可有之、是ハ茂作手元ニ而先繰變通之道、可被申談置候

一加布里東屋口御借銀之義ハ、当時取入たる示談も可難相立、併日田振合も有之候へハ彼方ニ響、時宜之含を以御 入庄屋懇談之品ニ依新借七百兩之分六ヶ年目と十ヶ年と申を三ヶ年計之年縮体之所を以先ツ取縮可被置、いつれ先方時宜ニ依口

上申含候通駈引懇談可有之候

御国元尾崎浦江英咭船一艘相越致繫船候段、長崎へ御注進之飛脚足輕弥次右衛門被差越、爰元へ之御状も同人江御渡被置、今晚相達

城戸村田根付、昨日も取掛候由

五月十五日 雨天

当日為祝辞地役中并両町役罷出候付、例之通於机之間受礼

御用日ニ付、会席へ罷出、内山も出勤有之

昨日も之降雨にて洪水、今申中刻迄水量木九尺迄出、未出増候段、水屋・高田両村庄屋も案内申出

五月十六日 雨天

下モ村洪水、今卯上刻迄三寸出増、九尺三寸迄出、いまた出増候段案内申出

龜谷久兵衛、博多江致着候由事託り之書状神辺之者預り来致持參相達

御産物方下代五兵衛 今昼も博多へ致出立

町代官白水幾右衛門義、財部万右衛門へ御用向有之、長崎も罷越、夜二入致着候段相届

五月十七日 雨天

浄元院様御向月二付、奥役同然昌元寺へ御寺詣仕

下村洪水、今辰上刻迄三尺式寸出増、水量木老丈式尺五寸迄出、

いまた出増候段案内申出

松浦・怡土両郡、昨年御年貢年賦米共御国送渡前五千四百十六石四斗六升式合六勺四才之内五千八十式石、五百五十四石、一番船も十一番船迄二御産物 俵二ノ 老万五千四百俵 一升之込

方へ送渡、残米式百十石四斗六升式合六勺四才、三斗四升俵二ノ

六百十九俵式合六勺四才、今以仕出不相濟候付、早々致借船御

国へ送渡候様、改方も濱崎御役場申遣候様相達

両郡も昨午年来百俵献納候分、売り払代銀爰元文武備金之内受込候筈之処、此せつ非常御備米之内御国送取計、両郡作食貸渡之米致不足候付、右献米百俵之分作食貸渡用不足米之内ニ相渡

候様、役方も御役場申遣候様相達

但、献米百俵代文武方返備之義ハ爰元も御国送渡残米之分、

非常御備米ニ返備可致内も爰元にて文武方江返備之筈也

一米五百俵

両郡作食用当五月可貸渡分

内百俵

兩郡の昨午年獻米取立有之分、爰元へ送越前二候を
取替相渡

同百九十式俵

非常御備米千五百俵之内、千三百五俵ハ御国送り取
計候付、残米如此

残米貳百五俵

此分買米敷代銀敷ニ而渡方取計、作食用五百俵之辻、
可貸渡事、尤仙八江含書ニハ此廉三百五俵之積書載候
へ共、前二有之内書獻米百俵現米取替候付、此廉如此
相也候事

、就右非常御備米千五百俵差引、左之通候事

一米千五百俵

非常御備米三千俵之半数ハ作食貸渡之為メ引備有之分
如此

内千三百五俵

此度田代へ借入、御国へ早急送渡取計、返備方ハ田代ハ
御国送残米之内作食不差支様手当返弁之積也

内千百三十式俵半 一斗六升六合六勺六才

田代ハ御米蔵送り前之分

同百七十式俵一斗六升六合六勺六才

加布里末松政右衛門、且兩郡ハ永納金二付被下
米之分田代米ハ御渡可被下を兩郡米ハ振替ニノ

相渡有之分返弁にして濱崎ハ御産物方へ送渡、
残米六百十九俵貳合六勺四才之内ニ可送越事

残米百九拾俵

此分作食用当五月貸渡前五百俵之内ニ相渡候事
、田代御米御国送り差引左之通

一米老万七千四百四十七俵貳斗貳升八合八勺七才

内壹万五千九百五俵

但、一番船ハ八番船迄追々送渡候分
残米千貳百四拾貳俵貳斗貳升八合七才

内四十俵

御膳糶半入ニノ八十俵、此度博多へ郷方ハ差出、御
国送り取計候筈

同七十俵

同御差足米之分右同断

同千百三十式俵貳斗貳升八合八勺七才

兩郡非常御備米借入、濱崎ハ御国送り取計候筈
内書ハ則 (空百)

外二大小豆百五十俵

追而御国へ送渡可申分

五月十八日 雨天

、下モ村洪水、今辰中刻迄貳尺三寸出増、水量木杓丈四尺八寸ニ

及、未夕出増候段案内申出

御主法方会日二付、奥役同然罷出

手代役助勤緒方一郎義、諸富へ差越置候処、大坂御廻米積船十
惠丸段々繫船、船手之者共難渋之次第、朝夕苦情申出候趣、手
代中へ申越書状差出、遂披見

板場掛松田小十郎義、作事掛助勤申付候段、及書達

板場之儀、一昨巳年分之榎実へ仕廻、新実之分ハ御主法方御普
請出来候上ニ蠟へ取掛候筈之由、御主法方ニ而承ル

五月十九日 雨天

御用日二付、会席へ罷出、内山も出勤也

下モ村洪水、昨十八日午刻迄三寸出増、一丈五尺一寸二而相満

今暁子之刻ハ引口相立、今十九日辰下刻迄四寸引、残水量木杓

丈四尺七寸迄引候段、案内申出

瓜生野町源吉義、年来蠟燭製作家業取統居候処、貧窮にて生蠟

仕入届兼、岩谷善作へ相頼一ヶ月凡金式十両内外之仕込助勢を

受生活罷在候処、此節蠟一体御手絞相成、生蠟買入方全不相成、

其上御近領通も旅出御禁制ニ付、一切仕込方不相届、職業取失

難義仕候付、生蠟三四百斤ツ、月々御主法方御壳渡被下候様、

代銀之義ハ三ヶ月迄上納被仰付被下度、万一相滞候節ハ善作引

受、急度上納可仕旨、別当座親々以書付願出、願之趣ハ御領中

灯用蠟差支候訳ニ付、願立之生蠟御壳渡被下候間、御主法方承

合買請、成丈下直可相商、尤旅壳之義堅差留候旨、以附札申付

製産掛役席之事ニ付、御茶屋両人ハ心付之条々手紙にて申来

五月廿日 雨天時々雨止

今朝、奥役入来有之

今朝、御茶屋へ罷越、昨日手紙之趣ニ付、拙者心付咄合

愛宕山使僧杉村主税入来、於玄關之間手代役青木小藤太応対、
左之通持参

但、主税へ茶・たばこ益差出、若党袴着給仕

御守札

御供物

扇子式本入一箱

きせる式本

朝倉山椒一袋

昆布 一包

書状一封

九日付也

目付役櫻井孫平義、両郡御米取立差越置候処、御用相濟今日帰

郷之段、届申出

両郡ハ献上納残、且永納金年割当暮上納前之分、繰上候義相

達置候処、当五月式百両、六月式百両ハ七月盆前百七十九両余

皆済上納之積御受申出、当月納式百両、札三ノ十四貫匁取立、

御役場を送り来、宰領として使番太郎罷越

御国問屋藤崎徳藏手代助七と申者、商用二付爰元へ罷越居、此節博多へ用向有之罷越度旨申出候付、博多令在候ハ、所持之切手ハ同所御門番相預り置、爰元差回迄ハ帰国差留置候様、御門番兩人へ可達越旨、手代中へ申渡

但、爰元之時体御国へ申上二御用有之、其前帰国候而ハ都合二付、兼而出立引留置候処、如本文願出候事、依之引留中之旅籠ハ從 上被下候旨申付

五月廿一日 雨天昼曇晴

両郡生子養育料出入差引帳、濱崎を送り来、昨午年中之差引致印、残米左之通有之

米百十俵半六升四合三勺

松浦郡

同式百三俵五升五合

怡土郡

下モ村洪水、今晝寅刻迄九寸引、水量木老丈一尺二相成居候処、夜半降雨ニ而出戻、今廿一日辰中刻迄壹尺三寸出増、同刻壹丈式尺三寸迄出、未出増候段、届申出

岩谷三左衛門・岩谷勘十郎義、今泉村松隈惣助不埒之義有之、禁足申付、組合預中令出奔、近親之間柄恐入、三月十四日差扣伺出相預置候、聊惣助義、兼々不身行者にて令博奕、其上瓜生野町青木甚右衛門へ四五ヶ年已前金錢差引取繼、宿村庄屋永瀬此右衛門・瓜生野町別当磯野良平相扱、一旦差引折合居候を其

後双方異難申立、去卯年裁判之儀願出、数度及吟味候末、押詰

当春口々引合差詰候処、惣助義、数条虚偽申立居候段相顯恐誤入、其節双方無相違通差引帳取調、惣助・甚右衛門押印、猶養父郡大庄屋吉松源次郎、此分良平ニも引合奥印差出置、其後惣助役筋偏頗之取計二付、無余儀誤入候様又候書付を以申立候付、遂糺明候筈之処、水災免御備銀大金之上納引負、妻子召連令欠落、重々大胆不埒二付、召捕次第糺明申付筈二候、右始末不身行ハ素り口々不埒之義申立、度々手入を掛候義、三左衛門叔甥之間柄、最前手代役勤中之義勘弁叱諭方も可有之処、終二大金之上納引負逃去候ニ至、勘十郎ニも当時手代役ニ罷在、旁以父子近親之間柄如何之心得二付、屹度被仰付方も候得共、当節迄ハ各別之用捨を以深不及沙汰、差扣何書差返候、已来万端心を可用候、尤惣助水災免上納金引負之義ハ取調之上追而親類中へ相達品可有之候条、其旨可相心得旨及書達

養父郡大庄屋吉松源次郎、惣助兄平之進、惣助親類泰八郎義、今泉村松隈惣助親類之身分、責論方大様等閑二付、禁足申付置候処、各別ニ加用捨深不及沙汰禁足差免候条、已来心を可用候、尤水災免御備上納金之義者取調、追而親類之者共へ相達品有之候条、可存其旨及書達

藏上村庄屋磯野百助義、養父郡大庄屋・藤木西村庄屋兼勤申付置候処、差免

松浦・怡土両郡非常御備米之内七百四十七俵作食用拝借之儀

願書手代中より取次差出、願出之内五百俵作食用拝借申付、当秋出来粃を以返納申付

、両郡村々生子養育残米三百十三俵半、当秋返納ニノ作食用拝借願出之通申付

五月廿二日 雨天

、下モ村洪水、今辰下刻迄六寸出増、老丈式尺九寸迄出相湛候段、案内申出

、御主向方会日二付、奥役同然罷出

、田代下町平七と申者、御主法方普請場へ土突日雇ニ罷出居候処、急症差起相果、兼々極貧ものにて日々を難凌体にて、御用場ニをゐて旁不便之至二付、御主法方より米貳俵相与候旨申付

祐筆 草野謙佑

諸職誘役被仰付、

祐筆之義ハ引切兼勤

申渡

前役差免、諸職

誘役申付

同 梯 真郷

山方役 古賀八郎

右之通及書達

、今度御改正二付、新二諸職誘役被相設、席之義ハ土地方吟味役

次席ニ而御主法方へ日勤申渡

作事掛

吉田喜間太

前役差免、此節

製産掛申付、

御普請中作事掛

兼勤をも申付

板場掛

前役差免、此節

製産掛申付、尤

作事掛之義、是迄之通

可相勤旨申付

古賀寛之助
松田小十郎

、今度御改正二付、板場掛之儀ハ被廢、新二製産掛被相設、席之儀留役次席にて御主法方日勤申渡

五月廿三日 曇天 辰之中刻地震 夕方雨降

、下モ村洪水、昨廿二日辰下刻迄一丈式尺九寸迄出、相湛候段、今辰中刻迄引口相立不申旨、案内申出、御用日ニ候得共、奥役腹瀉之由二付、寄合無之

田代町別当

荒木彦次

同座親

高尾弥次兵衛

瓜生野町座親

橋本佐八

木山口別当

櫻井英治

右者御主法用掛申付候条、心付等無遠慮申出、其筋差図ニ随、御為宜相勤旨申付

田代町年寄格

平田清三郎

田代町役格

北村喜兵衛

瓜生野町年寄格

岩谷善作

橋本柳太郎

右者此せつ御主法方手附申付候条、其筋差図ニ随、御為宜可相勤旨申付

今夜廿三夜待ニ付、お民との、青小・永大・古覚入来

五月廿四日 雨天

御主法方地開之場所へ蠟燭場并粉部屋新規取建、昨廿三日柱立、今日棟上有之

下モ村洪水、今朝迄忒寸引、水量木一丈忒尺七寸ニ相成候処、近日之降雨にて水勢可相増相見候旨、案内申出

同廿五日 雨天

下モ村洪水、今辰下刻老丈忒尺五寸迄引落候段、案内申出

五月廿六日 陰天

御用日ニ候得共、奥役腹痛之由ニ付、寄合欠席

下モ村洪水、今辰下刻老丈一尺忒寸迄引落候段、案内申出

長野村抱今町代吉義、不埒之義有之、同村庄屋富次郎江拝領奴申付置候処、去廿二日朝養用草刈ニ出候似不罷歸出奔候段、案内申出

同廿七日 晴天

下モ村洪水、今辰下刻迄四寸引、水量木老丈八寸迄引落候段、案内申出

使番藤太義、夜前緒方連屋敷江忍入候を同姓隼太見咎、片鬢刺落、死を免し、隼太女房八大石良輔へ預ケ居候由、小藤太極内々申聞ル

昌元寺住持亮道義、江州江罷越居、今日帰郷之段、届申出

同廿八日 晴天夕方少し雨降

下モ村洪水之儀、今朝川内へ引落候段、案内申出
御主法方会日ニ付罷出、奥役ハ不參也

、谷口喜十郎義、不埒之筋有之、禁足申付置候処、此せつ留役所
書手召放、先ッ親類預申付
、谷口喜十郎甥巨市義、不埒之筋禁足申置候処、入牢申付

五月廿九日 雨天夕方晴

、今朝古川入来、同道にて奥役へ罷越

、使番藤太義、不埒之次第聞込候筋有之、使番召放松浦郡五反田

村庄屋田中庄平へ十五ヶ年限拝領奴ニ申付ル
(十二代藩主義亮)

、兆徳院様御向月忌ニ付、奥役、古川同然御寺詣仕

、夕方奥役・古川・内山入来、塩 しの鮓出来

、龜谷久兵衛、今朝博多之如く出立

六月朔日 晴天時々雨降

、当日之為祝辞、地役中、青木文造、両町役罷出、例之通於机之

間受礼

、御用日ニ付、会席へ罷出、内山も出勤有之

、手代役緒方仙八、濱崎も夜ニ入、帰郷之段、御門迄届申出

六月二日 晴天

、筑前様江於博多大砲御鑄立之御挨拶、御使者財部万右衛門被仰
付、旧冬御音物をも被差出置候処、右為御答礼御側役伴新と申
仁態々御国へ被差渡、御国製劔付筒数挺被進候筈之由、内々承

り得候段、博多御門番も申越、然処、遠海態々被差越候段大造
之儀、殊当時と御国体御心配之程懸念之場も有之旁、右御使者
之儀、佐嘉・久留米等御隣旦之御振合を以、於田代引受度、手
寄を以て内談候方致評議、就夫手代役緒方仙八義、朝鮮牛馬骨
仕組ニ付、筑前浦奉行下役吉塚鉄藏且松岡清兵衛、兼々懇意ニ
付、一応致内話見候而可然、折柄仙八義濱崎へ被召仕置、帰郷
ニ臨居候付、委細同人へ手代中を以差含遣候処、帰郷掛於博多
鉄藏・清兵衛へ面会及内話候処、御側統取吉永源八郎、裏奉行
松永延左衛門談合之上、美濃守様達御聴候処、田代も内意之趣
も無義御聞届被成、右御使者之義、田代へ可被差向との御事ニ
候由、左之書取、鉄藏も相渡候由にて仙八も差出

但、書取之内、筑前様も御国へ御使者被差渡候先例無之旨、
仙八も申入候と相見候処、畢竟不体認ニ而今更不及是非次第
也

口演扣

此節主人方も御本府江使者被差出候段との義及御聞、緒方仙八
殿を以如何之趣意何等之訳合歟ハ御承知ハ無之候へ共、遠島之
義ニ候得ハ諸方様御使者何れも田代ニ御引受ニ相成被来儀ニ付、
此節使者之趣意ハ御存無之候へ共、前条之次第ニ而是迄御本府
へ諸方も之御使者御座候御先例も無之、旁田代迄にて取仕廻ニ
相成候儀ハ如何可有之哉、厚キ趣意ニ而遠島被差向候を兎角被
仰候訳ニ而ハ無之相成義ニ候ハ、諸家様御同様田代へ御引受ニ

相成候様評義手段等之儀ハ有之間敷哉之談御内分御委細御示談

之趣具ニ致承知、其趣を以役筋へ申入、委細主人方へ申達候処、

主人存意ニ候へハ旧冬来 御主人様も被為入御念御直書御使者

被差越候儀ニ付、乍聊右御答礼国製之劍附筒被差出、勿論打方

等之儀ハ御癸ニも被為相成義ニハ可有之候得共、万一右等之義

ニ付被仰付之次第も可有之哉との含ニ而為其其受持伴新を以被

差出候との趣意ニ御座候、然処、田代迄ニ而ハ余り失敬ニ被存

候付、右之都合ニ候得共、各様御評義之上、御内分被仰立候処

も御尤之儀、右之通御先例不被為在候ハ、各様任御存付、田代

迄被差出ニ而可有之候付、右之通宜御執計ニ相成度、此段分而

御通達可申述旨其役筋も申聞候、其御宜敷御執成ニ相成度候

事

未五月

吉塚鉄藏

大下モ村、夏作皆納令難渋候付、作食用として義倉米百俵拝借、

当秋出来米を以返納可仕旨、庄屋中も以書付願出、手代中取次

差出候付、願之通申付

六月三日 晴天

御膳用之米豆百十三俵、明四日郷馬も博多へ送出、御国前川

船々頭龜三郎船へ積之、宰領御産物方下代五兵衛申付、御国へ

送渡

一米豆百十三俵

内四拾俵 御膳糶

但、半入二ノ八十呎

同七拾俵 札付上米

同三俵 撰小豆

長崎御奉行支配調役下役飯山鑑之助、今度長崎下り爰元止宿ニ

付、例之通金貳百疋御遣出取計、宿亭主を以為差出、拙者肩衣

着為見廻旅宿へ相越、対面之上御礼被申聞

就右、供廻例之通、略之

但、玄関番前川彦兵衛、鍮持小人罷出

調役並小柴喜左衛門殿、大熊直次郎殿、同下役福井金平、家族

長崎へ被引越、今晚爰元止宿有之

生子養育差配役古賀勘介父与左衛門、御主法方へ罷出候様申付

置候内も、此せつ板場晒場被相設候付、同所へ罷出、心付等申

出、御為宜相勤旨、及書達

使番平助義、下横目兼勤申付

但、御主法方へ引切相勤、晒場取入方等無抜目立廻候様申

付、晒場小屋江住居をも申付

大下モ村江作食用貸渡候義倉米百俵、例之役々へ立会藏出いた

し候段、届申出

六月四日 雨天

御用日ニ付、会席へ罷出、内山も出勤也

、長崎御奉行支配調役並小柴喜左衛門殿家族、長崎へ被相越、夜前西野屋へ止宿之処、家来水田恒蔵西之宮駅へ相煩、今朝相果候付、当所へ埋葬之義、喜左衛門家来へ宿役人へ頼談二及候段、手代中へ申出候付、夫々手当可致旨申付候様相達

、瓜生野町甚市兄良七義、去年六月生子養育差配役古賀勘介へ三ヶ年切奴申付置候処、兼々製蠟方功者之ものと相聞候付、不易義なから奴号差免、此節御主法方製蠟場江召仕候条、身行相慎御為宜様可差働候、尤自然病氣故障等にて右之拌断申出候節ハ相残年限拝領奴可申付旨及書達

六月五日 雨天

、昨日の降雨にて下モ村洪水、今日之刻迄九尺五寸出、いまた出増候段、案内申出

、瓜生野町加賀屋判兵衛義、御主法方手附申付候段、及書達

、使番三平義、下横目兼勤申付置候処、御主法方へ引切相務候様、千代中江及口達

同六日 晴天

、下モ村洪水、夜前酉上刻迄一尺七寸出増、水量木一丈式寸二而相満、今辰下刻迄七寸引、残杓丈五寸迄引落候段、及案内

、河内村政右衛門義、御国へ罷渡居、御道具御雇被召抱置候処、不心得之義有之、此節御雇被召放、帰郷被仰付候間、已来御国

渡被差留候段、御用人中へ申来

同七日 晴天

、下モ村洪水、昨夜半迄川内江引落候段、及案内

、御主法方会日二付罷出、奥役ハ腹痛之気味合にて不参也

、御国御年寄中へ御状相達、左之条々被仰下

一尾崎浦へ繫泊英吉利船一艘致退帆候付、長崎御奉行へ御案内被仰上候付、聞役江之御状箇被差越候間、御扶持人を以差立候様との事

一於民様・於定様、御縁組被為濟、近々御婚式被相整、御縁家へ御引越之筈二付、江戸表へ四百五十両仕向方之儀、一昨年六月之書状二以御頭書御差図被仰下

六月八日 晴天

、御用日二付、会席へ罷出、奥役不快二付、於不断所御用向申談

、松浦・怡土両郡宗門改之儀、我々出張之筈二候処、不時之御要用差湊引外し難相成、段々時月及延引候付、不容易義なから例も有之候付、手代役・目付役・祐筆出郡、宗門改可取計、就右手代役之儀、緒方仙八両郡へ出役、諸事先規之通相心得、長寿之者、善行奇特もの褒称等有来之儀ハ我々名前を以書達取計、帰郷之上申出候様、及書達

、学頭・土地方吟味緒方連、目付役統取且手代助勤をも相勤居候

身分、倅隼太妻久留米家中之内に呼入、御領分有附も不相願、等閑に打過罷在、頃日已來家事向不取締之聞も有之、如何敷次第二付、目付役統取・手代助勤之儀に御断願出候様、手代中へ差含

六月九日 陰天未之刻に雨降

啓祐院様御忌日二付、昌元寺へ御寺詣仕

怡土郡大庄屋田中右五郎、郡方用向有之罷越、今日着候段届申出、致対面

両郡宗門改二付、祐筆役緒方登次・目付役永瀬大五郎致出役候段、手代中へ申出、聞届

六月十日 雨天

怡土郡田中村直作義、元來筑前福岡御領之者二候を大浦喜惣太亡父喜右衛門存生中養子にいたし、依願御領分有附申付別家仕居候処、不折合に有之、養子返并之儀喜惣太及談候未入組相生、裁判之儀先比以書付願出、然処直作義、今程御領分之百姓と相成居候上ハ不心得之筋有之歟、親類ハ素り組合之異見をも不相聞、村役人之教諭をも不相用歟、往々村方之為に不相成候様之不埒有之次第及案内候ハ、吟味之上罰方も可有之候へ共、喜惣太自保に養子返并親元へ差返候義ハ不相成筋可致勘弁旨相達置候処、直作義、村方へ呼取、心得方等加異見穩順に相納

り候付、先般喜惣太差出居候書付願下之義、大庄屋田中右五郎に以書付申出、手代中取次差出候付聞届、則喜惣太書付差返昨日之降雨にて下モ村洪水、今未之中刻迄九尺五寸迄出、いまた出増候段、及案内

怡土郡大庄屋田中右五郎義、用向相濟帰村申付

六月十一日 雨天

下モ村洪水、昨夜子刻迄壹尺三寸出増、壹丈八寸迄出相湛、今十一日辰中刻迄三寸引、水量木壹丈五寸迄引落候段、案内申出、今朝緒方仙八・緒方登次・永瀬大五郎并田中右五郎致出立

東明館学頭・土地方吟味役兼緒方連義、手代役助勤・目付役統取兼勤申渡置候処、口々之勤向難行届、其上当春已來疝積^積差起令難儀、御断之儀願出、事情無余儀相聞候付、願之通手代役助勤・目付役統取之儀ハ被差免候旨、及書達

六月十二日 雨天

御用日二候得共、奥役胸痛之気味にて会席断申来、下モ村洪水、引口相立居候処出戻り、今已刻迄壹丈八寸迄出、いまた出増候段、案内申出

同十三日 晴天 今未明雷鳴雨強し

田代町 祇園会二付、例之通地役中休日申渡

下モ村洪水、前夜亥之刻迄四寸出増、一丈貳尺貳寸ニ而湛、今十三日辰中刻迄四寸引一丈一尺八寸迄引落、尤夜前之降雨にて出増可申旨、及案内
 祇園社へ今晚此方へ挑灯灯之

同十四日 雨天

下モ村洪水、昨十三日未刻迄五寸出増、老丈貳尺三寸迄出、即刻引口相立、今十四日已上刻迄貳尺三寸引、残水量木一丈迄引落候段、及案内

今晚神辺村磯兵衛小屋・厩焼失二付、目付役櫻井孫平・大石良輔吟味として差越

但、手代役をも差越候義有之候へ共、人少二付、目付兩人差出

六月十五日 晴天

当日為祝詞地役中并青木文造、両町役罷出候付、於机之間受礼
 御用日二付、会席江罷出、内山も出勤也
 古賀盛太儀、玄關番之内へ祐筆助勤申付置候処、此せつ祐筆役
 仮役申付

山方仮役高尾敏之介義、前役差免、作事掛仮役申付
 目付役櫻井孫平、目付仮役大石良輔義、前役差免山方仮役申付
 玄關番見習橋本雄吾義、目付役助勤申付置候処、番勤之内へ祐

筆見習申付

小人定御雇傳吉義、種八代小人二召抱

田代町清右衛門義、小人定御雇申付

神辺村磯兵衛義、去ル十三日夜火を誤、小屋・厩及焼失候処、類焼も無之候付、叱筋申付差免

御門番仙藏、三組御雇喜平・八百八、長崎漂民警固召仕置候処、今夕令帰郷候段、届申出

六月十六日 陰天時々雨降

下モ村洪水、昨日暮方迄二川内江引落候段、案内申出

御門番利平、長崎へ令帰郷候段、届申出

博多御門番篠原喜代八義、内用有之今晚令着候由、以取次申出

同十七日 晴天

浄元院様御忌日二候得共、少々不快二付、御寺詣不仕也

野口村光蓮寺看坊雲月義、僧侶相応二有之、後任申付

太田観音夜市二付、目付役助勤八坂甚兵衛義、為警固罷出候段、届申出

同十八日 晴天已之旬過自雨

御主法方会日二付罷出、奥役ハ少々不快にて出勤無之

御主法方手附長崎屋益助義、油代取入方且上野庄三郎江貸渡金

催促方旁長崎江召仕方財部御役談有之

附目錄
のし包添

吉田邦次郎
旅宿
肥前屋

永吉村三郎右衛門所持之畠山へ松木仕立居候処、御主法方役所
取建二付、入用之木材大山へ無之候付、三郎右衛門畠山立木半
分御買上之儀差含置候処、御受申出候段、青木小藤太申出

右長崎へ被相越爰元止宿二付、御音物前以宿亭主を以為差出置、
拙者肩衣着見廻として旅宿へ相越、対面の上御礼被申聞
、供廻例之通二付、略之

六月十九日 晴天

御用日ニ候得共、拙者御使者勤有之、会席致不參

但、玄関番堀田東五郎、鍵持小人傳吉、御音物宰領御門番
喜平太罷出

長崎御奉行支配調役

素麵一箱

中臺信太郎殿

金三百疋

旅宿
町本陣

附目錄
のし包添

六月廿日 晴天

右今度長崎へ下向、家族同伴爰元止宿、未之刻着有之候付、右
之通二遣之、拙者麻上下着御使者相勤、取次之人へ面会御口上
申述差出候処、奥へ持入、頓而罷出、当所止宿二付而ハ御厄介
ニ罷成、其上拝領物被仰付難有奉存候、懸御目御挨拶申述候筈
之処、中暑にて打臥居候付、無其儀との義申聞候付、御不快之
段致承知、折角御保養被成候様、且又相応之御用向無御遠慮被
仰聞候様申述退去 但、調役之止宿当節初而成

今昼古川裕作入来被申聞候ハ、御主法方へ在町御買上櫃蠟・
辛子代、其外御渡前式千両余、盆季迄二八口々渡前を合候ハ、三
千五百両程ニ可相成候処、長崎へ晒蠟差廻候時、季前充捌之
運ニ難至、御渡方相滞候而も不相濟事故、夜前奥役へ罷越、地
役内九人ハ四千両、十六人ハ六百両、橋本莊左衛門・牛島善作
より七ヶ年割献金願出居候分、当暮可相納を盆季先納諭達方之
儀申談候処、手代役を以差含候様可致旨申候間、左様相心得、
拙者も手代中へ相達呉候様被申聞

調役下役

六月廿一日 晴天

橋本良之進

旅宿

長崎屋

金貳百疋、

同

、今明ヶ六時九分土用ニ入候付、地役中并両町役、生子養育差配
役罷出、以取次暑中見廻申出
、内山、暑中為見廻入来有之

、地役中内献金願出居候面々年割合当季上納之儀、昨日奥役の差
含有之候付、今日何方江歎寄合相諭管二候段、小藤太申出
、筑前様の為御使者伴新被差越、今夕爰元着、旅宿長崎屋へ致手
当候段、手代中の申出

同廿二日 晴天

、今朝暑中為見廻肩衣着、奥役・賄役へ相越

、松平美濃守様の御使者伴新、御茶屋へ入来二付、諸手配左之通

、御料理用意相調候上、時分宜候間御入来可被下旨、使番を以案

内申遣候事

、御使者入来二付、為先弘郷足輕一人、途中為案内田代町役一人、

羽織袴着罷出

但、郷足輕ハ御印附秩父羽織着

、御使者伴新、午刻過麻上下着、御茶屋へ入来

劍付筒五挺 一箱

諸道具共入合

右宰領足輕相附、御使者行列之先ニ為持入来二付、玄關番櫻井

富衛・大石敬太受取、本座江（ついで）餉付置

、御茶屋式台前下座敷へ給仕之者兩人左右ニ出迎居、内一人ハ刀

取

但、給仕之義、田代村庄屋今村為助、神辺村庄屋島清九郎

悴申付

、手代役青木小藤太、玄關之間へ麻上下着罷出居候処、新の美濃
守為使者罷出候旨申聞候付、此方へ御通被成候様申述誘引、本
座西頼床脇ニ居着、刀取刀掛ニ懸之、小藤太の申述候ハ、某義
ハ郡方役ニ而候、万事御世話いたし候様被申付候、御用無御遠
慮可被仰聞候、御出之趣役人共江可申聞候、暫御休息可被成旨
申述引取、茶・烟草盆差出

但、隣国の御使者、是迄二ノ間へ居付御饗応有之候へ共

昨冬財部万右衛門福岡へ御使者勤之節、本座ニ居着御饗応

有之、且爰元二而も川方の儀ニ付御両領の御使者入来之節、

本座ニ而応接之例も有之旁二付、此節ハ本座へ居着 事

、暫有而小藤太罷出、只今佐藤恒右衛門罷出致御面会候段申述引

取候上、恒右衛門麻上下着、東の西向御使者对座ニ居着、拙者

義佐藤恒右衛門ニ而候、為御使者遠方御越御苦勞存候、御口上

被仰聞候へと申述候処、左之通被申聞、御音物目錄并品付之書

付一通被相渡候付受取之、御口上之趣、国元 對馬守方へ委細

可申達旨及返答

弥御堅固珍重存候、先般大砲御鑄立二付、御家来衆被差越候

節、製造・様打等家来之者致心添候為御挨拶、以御使者品々

被懸御意被入御念儀存候、右為御答礼以使者目錄之通致進覽

候

、右応対畢而左之演説書白木文箱入御状一箱被渡候付、国元へ差

越可申旨及返答、又々新の被申聞候ハ、先般家来共拝領物被仰

付候得共、右御挨拶書中相洩候間、宜御挨拶申述候様被申付候間、御国元へも宜被仰越被下候様演説有之候付、相応返答、恒右衛門義引取

演説

旧冬御自筆御状を以御委細被仰越候付、其節御答可申述候処、持病之疝邪眩暈等二而執筆被出来兼候付其儀無之、此節自筆之書状を以御答被申述候

御品付之書付、左之通

覚

- 一 劍附筒 五挺
- 但、劍共
- 一 胴乱 五
- 一 劍指革 五
- 一 背負革 五
- 一 万力 老
- 一 せゝり 五
- 一 三ツ股 五
- 一 玉拔 五
- 一 油入 五
- 一 雷火胃 一箱
- 四千五百三十入
- 一 鑄形 五

以上

小藤太罷出、平田大江為御挨拶罷出候段申述引取候上、大江義、麻上下着罷出、拙者平田大江二而候、初而懸御目候、遠方御越御苦勞存候、暑サも強く候へハ寛々御休息可被成旨申述引取

恒右衛門又々出座、麁抹之料理申付置、拙者相伴仕候旨申述、無程二汁五菜之御料理、吸物三献差出、引盃二而御酒湯前二台盃、押肴三種差出、盃事相濟而湯差出、畢而順々引之、夫ハ口取菓子・濃茶・茶菓子・薄茶、相濟而煎茶差出、御饗応相濟而恒右衛門勝手へ引取

恒右衛門又々出座、当話退屈可有之旨致挨拶候処、新義、席を進候、今日八種々御丁寧被御饗応被下置難有仕合奉存候、御礼之儀宜御心得被下候様、御手前様へも彼是御念比御接応被下、忝存候旨申聞候付、相応及返答、頓而座を立候付、恒右衛門二ハ先達而玄關間迄送出、手代役青木小藤太、式台迄送出、互二一礼、給仕之者兩人ハ下座敷へ罷出、左右へ送出、内一人ハ刀持出相渡候付、御苦勞之段会釈被致退出

新供廻、若党式人・草り取一人・鎗持一人・挾箱持一人・持夫式人江左之通御振廻也

一汁三菜膳部猫足

膳二ノ引盃木具盛一、

鉢肴一、玄關之間二而

一汁三菜膳部日光膳

侍分式人

足輕一人

にして引盃片木盛一

下台所にて

小者四人

御使者へ被下物之儀、御国元御承知之上、晒布一疋被下方伺越、

其節宰領足輕・持夫へも被下取計候筈也

猷立左之通

いり酒猪口

洗鯉

鱈

海月

瓜

戸坂

岩茸

山葵付

平

鱸

金粉あん掛

二ノ膳

蒲鉾

むし玉子

鯛浜焼

香茸

いりこ

山いも

天目鮑

香物

引盃

瓜

鯛

平玉子

鯛

式丁引鮎

中肴式

日光膳

汁
椎茸
さげ

飯

天目鮑
秋月のり

飯

日光膳
氷こんにやく
鯛
牛房

鉢
尾早岐
とさか
はす芋

右侍分式人 猫足膳二ノ

宰領足輕一人、左之通

一汁三菜 引盃付

但、侍分之通

中肴一

干鱈

干鱈

日光膳
水蒟蒻

右宰領足輕一人 猫足膳二ノ

小者四人、持夫式人、左之通

一汁三菜 引盃付

但、前々同断 日光膳二ノ

片木盛合
十鱈

氷こんにやく
鯛

右小者四人、持夫式人

六月廿三日 晴天

御用日ニ候得共、差掛候義無之、寄合欠席

三郷大小庄屋中入来、以取次暑中見廻申出

同廿四日 晴天

、岩谷卯佐美入来、御主法方普請場へ罷出候木挽中、百四十文之
賃錢ニ而者米高直ニ付令難渋旨申出候付、古川へ其段申出置候
由申出ル

同廿五日 晴天

、錢屋五兵衛義、今朝如博多出立いたし候段、御持筒万右衛門申
聞

、内山入来、当年爰元御扶持米不足ニ付、郷方より三百俵借入置、
当秋成之上、現米にても代銀を以成り共返済可致旨、留役を以
談させ見度旨被申聞

六月廿六日 晴天

、御用日ニ付、会席へ罷出

金三百疋

長崎奉行御支配
調役並

附目錄
のし包添

小杉右藤次殿
旅宿
長崎屋

同式百疋

同下役

右同し

山 米三郎
旅宿
肥前屋

右長崎へ被罷下、爰元止宿、未之刻過着育之候付、御音物宿亭
主を以差出置、拙者肩衣着為見廻旅宿へ罷越、対面之上御礼被
申聞

但、右藤次殿中暑ニ而対面之体無之、御音物之御礼取次を
以挨拶有之

、就右、供廻例之通故略之

但、玄関番吉松岩右衛門、小人傳介罷出

、廻り振廻物例之通也

、白水幾右衛門義、長崎聞役より財部万右衛門へ御用向被申含罷越
居候処、御用済帰崎之儀申出、我々より之添状奥役より被相渡、今
夕致出立

、就右、爰元産物長崎へ差廻充捌方之儀、委細御主法より之含書相
渡、長崎御借銀取継方ニ付、財部より幾右衛門へ差含之書面披見
二来候付、一覽之上差返

六月廿七日 晴天未之刻過白雨

、老松宮社人・四阿屋宮社人より例年之通、夏越人形来ル

六月廿八日 晴天

、御主法方会日ニ付罷出、奥役不參也

、喜十郎・巨市、用銀方拝借銀上納取立方之儀、片山準八郎へ相
達

廣瀬源兵衛を銀会所引替多く令難渋候付、取統方口々以書付申出、手代中取次差出

穉田美作、月祓として入来

同人を夏越人形守致持参

大石多兵衛・荒木安易、御国へ罷越居、今夕令帰着候段届申出、致対面

大石多兵衛義、於御国悴代を式代御徒土被付候段申出

同廿九日 晴天

兆徳院様御忌日二付、昌元寺へ御仏参仕、帰り掛奥役へ立寄

緒方仙八・緒方登次・永瀬大五郎、両郡宗門改相濟、今夕令帰

郷候段、届申出

荒木安易・大石多兵衛義、御国江罷渡居候処、去ル廿五日博多

着いたし候段申来候旨、青木小藤太申聞

重富鼎住居諸生塾、御主法製蠟場ニ御買上相成候付、今程津田

買入之家屋敷借上居住いたし居候処、只今之俣難相濟候付、昌

元寺山之内御借上、野口村ニ売家有之候を金四兩二買入、塾ニ

取建度旨、青木小藤太へ伺出、聞届

但、野口村之売家買上代金之義ハ、御主法方へ相渡、昌元

寺之内八間角、年分米式俵ニ而昌元寺へ借入候義、及相

談候由、小藤太申出ル

地役中之内并橋本荘左衛門・牛島善作へ献金願出居候分、年割

金当七月季上納之儀、奥役へ被差含置候処、松田小十郎已下九

人并善作へ献納之分、当冬納前之半数七月季ニ上納可致、十九

人へ献金願出居候分、七月季現金・札等之仕繰難相届候付、御

主法方へ御払先キ引合ニ被仰付被下候様申出、荘右衛門分八田

地売払次第上納可仕旨申出候段、小藤太申出

小藤太家鴨持参、奥・御茶屋へ配分、三左衛門・覚之助相招

六月晦日 陰天白雨

三郷宗社三ヶ所へ来候夏越人形守、夜前枕下二敷、今朝若黨使

を以相納、奥・表・賄三人中の一社へ御最花一封百文也相添遣

之

但、若黨くじ取にて麻上下着罷越先例也、今日ハ豊太郎曾根

崎へ参ル

長崎御奉行御支配

調役並

金三百疋

沼間平六郎殿

附目錄
のし包添

右今度長崎へ下向、家族同伴爰元止宿二付、御音物宿亭主を以

為差出置、拙者肩衣着旅宿へ見廻ニ罷越、対面之上御礼被申聞

就右、供廻例之通二付、略之

但、玄関番八坂甚八、小人罷出

供廻へ夜食差出

七月朔日 陰天 時々白雨

、当日為祝詞地役中并青木文造、両町役罷出候付、例之通於机之間受礼

、御用日二付、会席へ罷出、内山も出勤也

、昌元寺町仁平義、御主法方使番申付、御扶持之儀、一ヶ年来十七俵三升相与候旨、手代中へ及書達

同二日 陰天

、長崎御奉行御支配調役下役中村良平已下七人、家族同伴長崎へ被罷下、来ル四日爰元止宿候筈先触相達、町役も届申出

、河内村主法米渡として青木小藤太・堀田東五郎罷出候段、届申出

七月三日 陰天時々白雨
今夜半雷烈し

、例年之通、於西清寺 萬松院様御施餓鬼執行有之、今辰之刻も

手代中罷出、時刻案内申越候付、拙者長袴着罷出、本堂も上り本坐へ居着、頓而勤行始り候付、御靈前次ノ間東之方障子際

へ西向ニ相詰、勤行畢而 御代香相勤御焼香仕、引続二疊目も自分拝礼仕此時表役ハ、御焼香不仕、手代中八次ノ間敷居際も拝礼仕、相濟

而本座へ引取休息

但、手代中ハ勤行之間、本堂へ東向ニ相詰也、今日奥

役不参也

、白玉汁子小皿盛、煮染差出、手代中次ノ間も致相伴来候へ共、爰元御主法立二付、右等取設ニ不及旨、手代中を以差含置、今日茶・たは粉盆計差出

、住持下座敷江迎送、手代中ハ本堂前江迎送有之

、供廻若党兩人麻上下着之、草り・鍔・挟箱為持之、先払御門番喜平太、鍔持小人傳介罷出

但、挟箱持、町日雇ハ賃錢六十文与之候得共、今日ハ手人召連

、御香奠丁錢九十文獻備仕

但、佐役ハ六十文也

、帰宅之上、御門番・小人江飯・酒振廻

、財部(三)方右衛門・古川裕作、麻上下着西清寺へ罷出、拝礼有之

、大坂御留守居島井儀左衛門も五月廿二日之書状相達候処、昨午年三月兵庫町人米屋清兵衛も防州阿知須浦政吉丸弥藏を以、田

代藏米式千俵買請、為代銀三拾四(貫)五百匁相渡、大庄屋三人も

慥成証文差入置候処滞、出入訴状一通西町御奉行所へ御呼出御渡被成、早々濟方致し候様、掛与力被相達候間、右三人之内急

速罷登致濟方候様、可及嚴達旨申来

但、本文之銀子、役方へ御借入ニ相成居候事

、江戸表佐須伊織殿も大江・恒右衛門へ年始正月二日之御状相達候処、上々様御勇健被成御超歳候段、被仰下

七月四日 曇天時々雨降

、例年之通、於昌元寺御施餓鬼執行ニ付、辰之刻より手代中罷出、時刻案内申越候付、拙者長袴着罷出、表玄闕より上り本座へ居着、頓而勤行始り候付、御霊前二ノ間東手襖際へ西向ニ相詰、勤行相済而 御代香相勤御焼香 仕ル也、畢而二畳目より自分拝礼、手代中迄拝礼相済而本座へ引取

但、手代中ハ勤行之間、三ノ間へ 御霊前相詰

、奥役不参ニ付、御代香拙者相勤ル也

、財部万右衛門・古川裕作、麻上下着、昌元寺へ罷出、拝礼有之

、手代中玄闕前、住持ハ式台へ迎送之事

、御香奠献備、昨日之通也

、供廻昨日ニ同し、先弘御門番仙蔵、鎚持小人清右衛門罷出ル、

歸宅之上、飯振廻

、昌元寺にて冷素麵差出来候得共、御主法立ニ付無其義、茶菓子

差出

、夜前之降雨にて下モ村洪水、今辰下刻迄老丈式尺八寸迄出、未

夕出増候段 水屋・高田庄屋より案内申出

長崎御奉行御支配

調役下役

中村良平

金貳百疋ツ、

附目錄
のし包添

旅宿
吉松幸右衛門

村瀬又左衛門
旅宿
古賀勘介

黒沢謙蔵

旅宿
昌元寺町嘉助

鈴木卓太郎

旅宿
肥前屋嘉作

門谷金一郎

旅宿
長崎屋益助

飯塚損之進

旅宿
荒木屋芳兵衛

牧羽幸兵衛

旅宿
小松屋仁平

右今度長崎江下向、家族同伴爰元止宿ニ付、御音物宿亭主を以
為差出、拙者肩衣着、見廻として旅宿へ相越、いつれも対面之
上、御礼申聞

、就右、供廻例之通二付、略之

但、玄關番古賀喜一郎、小人清右衛門罷出

、供廻へ飯振廻

、松浦・怡土両郡より作食用米五百俵拝借之義、願書手代中取次差出、聞届

、使番種八義、長崎廻し蠟油宰領として近々長崎へ召使仕候旨申付

七月五日 雨天朝之内雷雨烈し

、今町裏山手へ石炭有之様子二付、小倉領赤池と申所之掘子両三人雇入方、財部・古川より緒方幸之進を以相談申来、同意之段及

返答

、下毛村洪水、昨四日子上刻迄六寸出増、杓丈三尺八寸迄出相満、

今辰下刻迄三寸引、残杓丈三尺五寸迄引落候段、案内申出

七月六日 雨天今朝雷雨烈し

、地役中宗門改取計候付、今午刻より御本家へ平服罷出、御徒士格

式之銘々寄合之間をみて一人ツ、宗旨目録差出、御扶持人中

・青木文造、生子養育方佐配役、御広間南椽頬へ掛相詰、書手

・買物番八南椽頬、三組之者より使者之間へ罷出、誓旨・血判仕、

遂見分

但、奥役引入中不参二付、格式之面々、宗旨目録見届之証

印有之候様、手代役へ相達渡之

、財部万右衛門・古川裕作、出張仕

、地役中已下三組之者共、宗門改濟之礼以取次申出

、右之面々家内改方、宅々江手代役・目付役罷越、委細去卯年五月十六日之所二記

、右畢而左之面々、役義之誓旨申渡、血判見届

手代役仮役

御主法掛引切兼勤

緒方幸之進

当病

岩谷勘十郎

草野作之進

請払留役仮役

大石多兵衛

同助勤

橋本次郎左衛門

祐筆仮役

古賀盛太

同見習

橋本雄吾

作事掛助勤

古賀寛之助

松田小十郎

同仮役

原岡嘉一郎

喜平太
種 八

高尾敏之助

山方兼勤

織方織衛

荒木平内

同仮役

櫻井孫平

大石良輔

目付役助勤

青木藏太

門司範造

同仮役

岩谷卯佐美

同助勤

大石敬太

八坂甚兵衛

櫻井富衛

右之面々、いつれも肩衣着御広間三ノ間へ罷出、誓旨前書祐筆
役説之、畢而血判仕、手代役緒方仙八・目付役永瀬大五郎立会
罷出

御門番

右者山方下横目之誓旨申付、手代役・目付役、東椽頼江立会、使者之間、血判仕ル也

下モ村洪水、九寸出戻り今六日巳上刻迄壹丈四尺迄出、いまた出増候段、案内申出

園部下村茂平悴浅吉と申者、宮浦西村貞七方へ一季奉公ニ罷越、今朝城山へ草刈ニ出候処、暴雨谷川満水ニ而白木谷より流レ致溺死候段、園部庄屋、案内申候ニ付、手代仮役草野作之進、目付役助勤青木藏太、檢使として差越候処、流死無相違相見候付、勝手次第葬式申付、茂平・貞七組合共、之口書差出、遂披見

下モ村洪水、今戌下刻迄一尺八寸出増、一丈五尺八寸ニ及、未夕出増候段、及深更案内申出

七月七日 晴天

七夕之為祝詞、地役中已下罷出候付、拙者麻上下着、席々へ罷出受礼

但、役医・郡目付・庄屋中ハ今日ハ不罷出先格也

御徒士格式之面々、机之間次へ折廻り列座、机之間へ出座謁之

御扶持人中、表座次ノ間へ折廻り列座、本座へ罷出受礼

東明館訓導師青木文造、右同所へ罷出、手代役青木小藤太披露

生子養育差配役、右同断

、御主法方書手篠原崎藏、表玄闕之間へ罷出、右同断

右者南椽類へ持参、初而礼仕、披露右同人

、買物番、右同断

諸職誘役

、三組中、内玄闕之間へ列座、披露右同断

梯 真郷

、田代町役中、表座次へ列座、右同断

古賀八郎

、瓜生野役中、右同断

製産掛

右畢而御本家へ罷出、尤寄合之間ニをみて奥役面会、互ニ祝詞

吉田喜間太

申述候筈ニ候処、奥役引入ニ付、無其義不断所へ罷通致面会、

古賀寛之助

賄役出勤也

松田小十郎

、財部万右衛門・古川裕作出勤有之

祐筆仮役

古賀盛太

、御広間二ノ間へ出席、在之通受礼、財部・古川も出席也

作事掛仮役

高尾敏之介

悴代ハ二代御徒士
被仰付

一生御徒士格

大石多兵衛

山方仮役

櫻井孫平

外科

荒木安易

大石良輔

一生御徒士

右之面々御国へ罷渡逗留中、結構被仰付候付、難有旨御礼三ノ

右之面々役儀初而之礼仕、寄合之間へ罷出、披露手代役緒方仙

間へ罷出、披露手代役緒方仙八

八

曾根崎村

産科

古賀玄壽

、右畢而於寄合之間七夕之祝義口祝被差出、手代中・御徒士格式

産科

古賀玄壽

之面々、用銀掛・留役・祐筆・考鑑方・玄闕番迄某ハ口祝挟之

古賀玄壽

但、御扶持人八次ノ間ニ而脇差を取罷出

扇子式本

御本家へ罷出候節、五節句ハ鍵箱為持候格ニ候へ共、今日ハ相

水引結
のし包添

省

省

退出掛御賄へ為祝辞相越

例年之通地役中へ孟蘭盆之御見合、大小麦延完金勤被下、文武出精之面々、御褒美被下等申渡

下モ村洪水、今七日辰中刻迄一丈六尺二及、未夕出増候段、案内申出

洪水二付御救之義、尅丈六尺五寸二而握り飯相与候先格二有之候処、今朝之出水尅丈六尺二及、追々出増可申旨及案内、下モ村之義、当夏毛水腐令難渋居候半二付、御救致手当自然定式之水尺二不至候共、与方及評義、手代役青木小藤太へ相達、下郷八曾根崎、養父郡八藤木西村庄屋宅へ例之役々罷越、夫々用意下モ村六ヶ村へ掬飯相渡、夜二入役々引取候段、御門迄届申出

但、御救渡之義、去卯年五月廿日之日帳二記

地役中之内九人并牛島善作より献金願出居候分、年割金当盆季半数ハ現金、半数ハ御主法方へ御払先引合ニノ上納之儀及諭達候様、手代役緒方仙八・青木小藤太・緒方幸之進・草野作之進、奥役不断所へ呼出差合、財部・古川・内山列席也

在町へ御主法方へ買上櫃実・蠟油代銀、其外御渡前相滞居候処、長崎へ取入前之金子季前其運二不至候付、御主法方有合之物品変通之道色々致心配候得共、都合能作略二至兼、左候へハ下方看難渋ハ見張候へ共、御借金等之相談自他共難届、不得已事情いつれも令感服、当時之難渋如何様にも相忍候ハ、長崎へ追々送來次第早速御渡可被下旨、大庄屋・農政・別当・座親

・御主法方手附之銘々へ及諭達候様、手代中・御主法掛へ奥役不断所二而懇達、財部・古川・内山列席也

但、明日在町役々呼出相達旨申出

義倉米御備之内、五百俵式斗式升五勺八才、三郷村々小前へ作食用貸渡之儀兼而聞届置、今日藏出し取計候付、手代役・受払留役・目付役・用番之大庄屋立会相渡候段申出

但、目付役之儀、今日在出差支候付、山方役櫻井孫平義、目付助勤、義倉藏出立会候様、手代中を以申渡、則同人罷出ル

御藏錠鑰封印之手数、去ル卯年五月六日之所二記

七月八日 晴天

下モ村洪水、今辰中刻迄式尺九寸引、残尅丈三尺一寸迄引落候段案内申出

瓜生野町次七・才助、園部下村善助、城戸村武平義、禁足申付但、去ル四日長崎下り御役人衆御通行之節、公役出勤遂刻不都合ニ依如此

田代町紋吉・善八義、去ル四日 公義御役人衆御通行二付告番申付候処、出方及延引不都合二付、嚴重申付方候へ共、二番二入込之御役人を告候付、各別之宥免を加、叱申付差免候条、已來公役筋可入念旨申付

高田村先庄屋与五郎次男益助と申者、当年十七歳相成候を青木

小藤太世話にて若党ニ相履、今日引越来ル

、日田御陣屋御貸附金三百両、去冬、仮証文を以拝借相加居候処、
本証文差出候様との義、御用達江御達有之候旨申来候付、則本
証文取調、留役大石多兵衛持参二付、拙者奥印相渡

但、手代・留役之内一人日田へ罷越、御陣屋へ差出候先
格二候へ共、当節ハ本証文差越候ハ、元中へ入内見置可
申候聞、追而老人罷越、不苦都合可取計旨、源兵衛より申来
候付、本文之証文使番雄吉へ宰領申付、源兵衛迄差越候筈
也

、日田御貸附金都合三千両拝借之分、当季納利足并御遣出金共、
廣瀬源兵衛江送越、使番雄吉宰領ニ而明朝出立申付

七月九日 晴天

、啓祐院様御忌日ニ候得共、少々不快ニ付、御寺詣不仕也
、河内・宿・蔵上・藤木四ヶ村主法来渡濟ニ相成、青木小藤太証
印帳持参二付、押印

但、蔵上村米主向之外金百九十両余成立金有之、此分を以
余米地相求、相備させ度、追而評義之事

、養父郡大庄屋吉松源次郎義、青木小藤太へ用向有之罷越候付、
致对面

、高雄婆々みとり入来

七月十日 晴天

、緒方仙八・青木小藤太、下郷・養父郡主法村々江米渡として罷
出

、御国御年寄中江年始御祝詞状箇仕出方、財部より示談ニ依、是迄
見合居候処、段々及延引、猶申談之上仕出取計、今日状箇ニ立、
明日飛脚差出、博多へ差出候筈也

、今晚、奥役へ見廻ニ罷越、内山へも参ル

七月十一日 晴天

、御主法方御普請場江召仕居候大工・木挽・左官之儀、米高直ニ
付而者家内育方も有之、日々罷出候而ハ甚難渋之趣ニ相聞候付、
大工・木挽・左官上職之者相撰被召仕、朝出五十文、昼貳百文
之賃錢御渡被下度、米直段引下ヶ候ハ、御定賃錢御渡被下度旨
御普請掛之面々より御主法方へ以書付申出、事情無余義相聞候付、
申出候通被仰付度之由、財部より仙八を以相談申来、存寄無之同
意之段返答

貳斗入油八挺

古賀 勘助

同 四挺

堺屋 嘉助

同 八挺

荒木屋 芳兵衛

右之者共所持之油旅出いたし度旨、町役より御主法方へ以書付申
出候付、願之通被仰付度、財部より仙八を以相談申来、同意之段
及返答

七月十二日 晴天昼比も白雨

御用日二付、会席へ罷出、奥役不快二付、於不斷所面会

田代村茂八と申者、先年令出奔、去ル辰年帳外相成居候処、左嘉御領杵島郡富岡村にて相煩、同所も宿村繼ニ而送り来候段、田代村庄屋も以書付申出候付、村方も致看病快方之上、早々案内申出候様相達

但、公義御作法及吟味候処、無宿者ニ而も病人之事故、追払候儀ハ不相成、快方之上御領之所置可有之筋ニ相見候付、如本文申付

御持筒万右衛門義、状飛脚として爰元へ罷越令逗留居候処、石炭試掘之場所へ取締として罷出候様仕度旨、財部・古川も相談有之、則手代中を以申付

夜前佐嘉御領も送り来居候田代村茂八相果候段、庄屋も遂案内

七月十三日 晴天昼後雨降

中元之祝義、三役・財部・古川へも箱肴贈答

地役中已下在町役々之分、中元之祝義例年之通肴代致進上也

穢多中も例年之通、雪駄一足、藁草り式足致進上、就右丁錢三百文札ニノ半紙包にて与之

但、竹皮草り・藁草り一足ツ、差出先例二候へ共、近年如本文

城戸村勘左衛門と申者、肥前武雄辺へ罷越、歸路於途中令病死、庄屋も及案内候旨、手代中取次申出

城戸村庄屋梁井三郎兵衛義、同村勘左衛門無切手にて武雄へ罷越、於途中令病死、旅行切手之義相願候御法を背候段、庄屋之身分平素之示方不行届二付、叱申付

手代役緒方仙八義、近来御用繁多之中、同役病人・旅行等二人少二候処、壯健ニ有之、専令精勤、加之先般大坂廻米積船一件二付、青木小藤大江御用向示談之為、火急諸富へ召仕、臨時両郡へも出役申渡、別而骨折相務候付、旁被及御沙汰、為御褒美金三百疋被成下候段申渡

手代役青木小藤太義、近来御用繁多之中、同役病人・旅行等二人少二候処、壯健ニ有之専令精勤、加之大坂廻米船一件二付、火急諸富且佐嘉へも被召仕候処、臨時之御用懸合向等各別骨折相勤候付、旁被及御沙汰、為御褒美金三百疋被成下候段申渡

手代仮役御主法掛兼草野作之進義、大坂廻米船一件二付、火急諸富へ被召仕、彼地之模様ニ依佐嘉へも罷越、懸合向等別而骨折相勤候付、為御褒美金三百疋被成下候段申渡

祐筆役草野謙佑義、大坂廻米船一件二付、佐嘉懸合書物等別而多端ニ有之、其上相含候訳ニ依諸富迄罷越、臨時令苦勞候付、為御褒美銀五両被成下候段申渡

梯真郷義、大坂廻米船一件二付、佐嘉懸合向書物臨時令苦勞候付、御褒美銀式両被下之候段、及書達

梯真郷・大石良輔義、肥前諸富ニをみて大坂廻米船滞船一条ニ付、積船取締之為同所へ召仕候処、今日致逗留、別而良輔義ハ引残相詰、いづれも令苦勞候付、為御褒美真郷へ銀八両、良輔へ同十兩被下候段、及書達

酒井西村庄屋磯野孫六義、右同断ニ付、川方内談役之廉にて青木小藤太へ相附、同所且佐嘉へ被召仕臨時令苦勞候付、為褒美鳥目三百文相与

御主法方書手篠原崎藏義、右同断ニ付、諸富へ初発々召仕、左嘉へも罷越毎度令骨折候付、為褒美鳥目三貫文相与

御門番勇平・茂右衛門義、右同断ニ付、諸富へ召仕、銀主方懸合向等加勘弁毎度佐嘉・早津江江令往返、臨時令苦勞候付、為褒美鳥目壹々五百文ツ、相与

使番三平・平助・勇吉義、右同断ニ付役筋へ相附、諸富へ差越臨時令苦勞候付、為褒美鳥目五百文ツ、相与

田代町益助・森八・瓜生野町伊助・判兵衛義、御主法方手附申付置、産物売買等ニ付、心得方ニ依御損益不輕義ニ候処、何れも御為宜誠実相勤候付、月々式人扶持ツ、相与候、尤右之者共、勤掛々御渡被下候間、自今弥相励正路ニ可相勤旨申付

松浦郡宇木村庄屋榑崎善一郎義、大小庄屋惣代として罷出、今夕致着候段、届申出

御主法方会日ニ付罷出、奥役不参也

七月十四日 晴天昼後白雨

孟蘭盆之為祝詞地役中已下罷出候付、拙者麻上下着於席々受礼
手代中且格式之面々、布上下着机之間次へ折廻り列座

御扶持人中・大廻船差引役青木厚三郎、表二ノ間へ列座
同嫡子中、右同所列座當時無之

東明館訓導師青木文造、右同断
生子養育差配役中、右同断

御目見医梁井吉十郎、十徳着、右同断
但、養育ニ付、不罷出

役医中、右同断
同格中、右同断

郡目付永瀬刃兵衛、右同断当病
御主法方書手篠原崎藏、表玄關之間
買物番喜左衛門、表玄關之間

但、禁足中ニ付、不罷出
三組中、内玄關之間

穀物改役・大廻船差引役・馬医・表二ノ間
但、船差引役青木厚三郎、御扶持人定末々礼席申付有之、

此所へ不罷出
同格櫻井恒五郎、右同断

三郷大小庄屋中、表二ノ間々玄關之間ニ掛列座
両郡取締役大庄屋次席近藤幸左衛門、両郡大小庄屋惣代榑崎善

一郎、玄関之間

三郷庄屋子供中、玄関之間

船才判役利次郎、布上下着右同断

川方内談役、二ノ間ニ罷出

御用達中 今程無之

在町平之者中、表玄関之間 今日一人も
不罷出

在町医師中、表二ノ間

六十人中、右同所 今日いつれも不參

同格中、右同所 今日いつれも不參

但、御扶持人嫡子中已下、披露手代役緒方仙八

右相濟而御本家へ罷出、於会席奥役出會、互ニ祝詞申述候格ニ
候得共、奥役病氣ニ付、不断所へ罷通致対面

但、鍵箱為持候筈ニ候へ共相省、若党兩人袴着、草り取召

連

例年之通、壁書読渡候付、財部同然御広間二ノ間へ罷出、手代
中已下地役中・在町役々・三組ニ至、例之席々へ相話、祐筆草
野謙佑壁書読之、委細昨年通ニ付、略之

右相濟而於寄合之間奥役も口祝被差出、手代役・御徒土格之面
々且用銀掛・受払留役・考鑑方・祐筆・玄関番当番へ口祝挟之
西清寺・昌元寺へ盃蘭盆ニ付、御寺詣仕、麻上下着用也、西清
寺下座敷、昌元寺住持八式台へ迎送仕

但、若党兩人袴着草り取、鍵箱持之、鍵持小人罷出

先払御門番仙藏罷出

今日八手代中迎送無之

御香奠ハ御施餓鬼献備仕、今日無其義

財部万右衛門、中元為祝詞入来有之

賄役・御茶屋へも為祝詞罷越

六十人古賀勘介父与左衛門義、御主法方へ罷出候内も板場・晒
場へも罷出候様申付、家職繁多之中も切実相勤、各別御為相成
候付、勤掛も月々一人半扶持相与候条、相励精ニ入可相勤旨申
付

七月十五日 曇天辰之刻過も雨

地役中、如例年休日申渡

同十六日 晴天

宇木村庄屋榑崎善一郎義、明日帰村出立申付

中元祝詞として地役中并両町別当、座親、三郷大庄屋へ若党使
遣之、豊太郎麻上下着罷越

足輕弥次右衛門、長崎も帰国、爰元通行、今晚当駅致止宿候由
にて入来、致対面

但、翌十七日昼、爰元出立仕、奥御注文博多織、御馬乗袴
地御国へ送り遣

七月十七日 晴天

、浄元院様御忌日二付、御寺詣可致之処、少々不快二有之無其義
、古川、中元為祝詞入来有之

、瓜生野町次七・才助義、去ル四日 公義御役人御止宿之節、宿
亭主へ罷出候処、御入込之節出迎等及延引不届二付、禁足申付
置候、惣而御役人衆御通行二付、御取扱之義ハ、被対 公辺へ
訳柄ハ勘弁も可致候処、畢竟等閑之心得不埒二付、此上申付方
も候へ共、各別之憐愍を加禁足差免候条、以来公役筋可入念旨
申付

、城戸村武平、園部下村善助義、右同断二付、先弘申付置候処、
令遅参入込之間二合兼不届二付、禁足申付置候、惣而御役人衆
御通行二付、御取扱之義者被対、公辺へ訳柄輕キものなから勘
弁も可致候処、畢竟等閑之心得二付、此上申付方も候へ共、各
別之憐愍を加、禁足差免

七月十八日 晴天

、御主法方会日二候へ共、少々不快二有之、致不参
、御主法方御普請召仕候職人賃錢之義、左之通及書達

此度御主法二付、不時御普請平夫召仕方、先年御建家之節ハ
御時体も違、殊米穀高直二有之、旁以朝出三十文、昼百文に
て召使有之、当節八大工・木挽・左官・定夫等何れも朝出十
文減し二申付候釣合を以減方可申付候処、平夫之儀八元来賃

錢も輕キ事故、不及減縮、朝出三十文、昼百文にて撰人を以
召仕候間、各別可為致出精候

一右同断御用木材運送之義、臨時大造之木数御定法之度持二而
ハ令難義候と相聞、当時米直段も高直二付、御建家之節之振
二準し此節も見計を以、村方渡賃持申付候間、農間繰合御用
不差支様可取計候

七月十九日 晴天

、御用日二候へ共、奥役引入中、拙者も不快二付、寄合欠席
、使番多平、長崎へ召仕置候処、金四百両致宰領、夜前致歸郷候
段、届申出

、御門番仙藏・小人傳助義、石州へ仕向金五百両宰領申付、明日
出立をも申付
但、本文五百両ハ昨年(息)之利足也

七月廿日 晴天

、園部上村庄屋野田倭一郎、神辺村庄屋島清九郎義、此節紙漉用
掛申付候条、紙漉共懇令精配、猶又御用便宜相務旨申付

、城戸村庄屋梁井三郎兵衛、宮浦東村庄屋門司武四郎、同西村庄
屋許斐修藏義、此節紙漉用掛申付候条、紙漉共懇令精配、御主
法方会日罷出、御用便宜相勤旨申付

、宮浦西村利平、同東村定四郎、城戸村定四郎、園部上村権七義、

兼々紙漉功者之者と相聞候付、此節御主法紙漉棟梁申付候条、同職之者紙漉立方相誘御為宜令精配旨申付
、養父村喜右衛門儀、不埒之筋有之、禁足申付

七月廿一日 晴天

、今朝内山入来、作之進大坂登り御算用御本前へ引受相兼候事情被申聞

七月廿二日 晴天

、祝金十郎、七月六日之書状博多御扶助馬戻り便相達候処、銀山御取開二付、濱崎へ被召仕、為御用便在留中御勘定手代兼勤をも被仰付候段申来

、御主法方会日二付罷出、奥役不参也

同廿三日 晴天

、於濱崎鉄山御取開且銀札遣之義、左之通被仰出候間、得其意御為筋旋力可仕旨、平田宮内殿、平田為之允殿、当月九日付を以被仰下

御領分濱崎、出候鉄砂御取寄、於御国吹立被仰付置、猶山方をも御吟味被仰付候付、鹿家村之山鉄砂掘試候処、夥敷義と相聞、御領中一面鉄砂可出様子二付、此節於濱崎鉄山御取開吹出被仰付候

一両郡濱崎之義、銀札遣被差止置候処、御隣国都而銀札遣二付、間銀・歩銀等損銀多御領中令難渋候と相聞候付、最前之通銀札遣被仰付候

(上欄之注)此御達之趣、九月廿日達御状面二違候事

右之両状田代役々へ被成御任候条、掛役々懇申談、御便利之主法を設、万端御為宜可取計旨被仰付候

、阿須御屋舖皿山御用として其元皿山、水干白石粉一ヶ年老万斤ツ、差送候様相成居候、運賃・船賃、其元当時取替置、頓而阿須皿山御主向相立候上、返弁之積被仰付候との義、平田為之允殿、六月廿一日付を以御差図被仰下

、赤木源左衛門義、以思召添勘定被仰付候段、御勘定奉行所、六月廿六日付書状を以申来

、御与頭大浦藏之允、左之通被達越

一筆令啓上候、各義御書付を以状末之通被仰出候間、左様御心得可有之候、此段為可申述如此御座候、恐惶謹言

七月五日

平田大江殿

佐藤恒右衛門殿

田代役

平田大江

表役

佐藤恒右衛門

右者於濱崎、鉄山御取開且御両郡銀札遣之御主法御用掛被仰付候、此旨可被申渡越候、已上

七月五日

年寄中

与頭衆中

筆頭添役席御案書役財部万右衛門、御目付古川裕作義、爰元へ被召仕置候処、濱崎鉄山御取開且両郡銀札遣之御主法御用掛被仰付、万右衛門義ハ濱崎へも被召仕候段、御国へ御達越有之候旨、緒方幸之進を以申来

賄役内山繁左衛門義、右同断御用掛被仰付候段、入来吹聴有之御用日ニ候得共奥役不快ニ付、会席不參也

近来在町共患病致流行候付、明後廿五日田代町於 祇園社邪氣除之御祈禱執行被仰付候間、先例之通申渡候様、手代中江相達

宮浦東村庄屋門司武四郎義、同村若宮兵庫妹ちよと申者無切手ニ而肥前長崎へ罷越居、同所ニ而流行相煩、九死一生之体ニ付、兵庫倅守衛義、為迎罷越度切手願出承届候、然処旅行ニ付而ハ往来切手相願候御作法者勿論、長崎へ罷越候義ハ不相成御法ニ候処、庄屋之身分平素示方等閑ニ相見不届ニ付、急度申付方も候へ共、ちよ旅行之儀是迄不相心得趣ニ相聞候付、此節迄ハ有免を加叱申付候条、以来万端可心用旨申付

同村若宮兵庫義、不埒之筋有之、禁足申付

七月廿四日 晴天

七月廿五日 陰天時々小雨

近来在町共ニ痢病時行候付、田代町 祇園社へ三郷宗社勧請、邪氣除之御祈禱申渡、手代中一統其外ハ一役一人ツ、三郷大庄屋中・小庄屋ハ一郷ハ兩人ツ、兩町別当・座親、布上下着、辰之刻ハ相詰、五座之祓社人中相務

四座祓相濟而午刻過案内申来候付、麻上下着罷出、祓有之候而奉幣社人中祓一座畢而社僧松林院勤行濟神拜、又々社人中祓有之、御神酒社人持出候付戴之、手代中已下在町役人中ニ至戴之

但、奥役・賄役、今日不參也、御目付・在方吟味兼古川裕

作罷出ル

右相濟而從 上御口祝被成下、手代役緒方仙八持出、拙者、裕作へも挟之、手代中已下在町役人中、社人・社僧へ拙者ハ口祝遣之

但、奥役ハ被挟候義ニ候へ共、不參ニ付、如此

社人・社僧へ為苦勞料鳥目四貫文被成下、御目錄手代中を以相渡、一同罷出、御札申出

兩役往還共地役中參居、外社人・社僧鳥居内、在町役人共ハ街並ニ罷出、迎送仕

御祈禱ニ付罷出候役々、引取掛為届罷出

社人中・社僧ハ御祈禱之守札差出、在町戸毎配札之先例也

祇園社へ罷出候付、供廻り若党兩人袴着、草り取・鍵箱也

但、先払御門番喜平太、鑓持小人清右衛門罷出、箱持町ら
雇、賃錢六十文与之、いづれも飯・中酒振廻也
御祈禱二付、御備物苦勞料及吟味候処、弘化四未年御算用帳二
左之通記有之

一 正銀拾六匁

御備物料

一 六錢六拾四匁

烏目四貫文二ノ

一同九匁式分

口祝、干いか・昆布

炭・茶代等之分

右者御領中在町共二痢病致流行候付、邪氣退散之御祈禱申渡
候付、御備物苦勞、紙代共二社人・社僧五人へ相渡候分

七月廿六日 晴天

御用日ニ候得共、腹痛其上奥役引入中旁二付、寄合欠席

永吉南村林兵衛と申者、霍乱かくらん相煩候付、御救人参庄屋ら相願候

旨申出、差掛居候付、御預り之内ら五分入一袋仙八へ相渡、尤

追而願書差出候筈也

酒井両村患病時行候付、氏神ニをみて二夜三日之祈禱且邪氣追

願出聞届

七月廿七日 陰天

若津先後屋伊作爰元へ罷越、御借金一条只今之姿ニ而八相濟
間敷如何と歟御主意御附被下候ハ、共趣を以銀主之銘々致応対

度申出候段、財部ら仙八を以申来

小倉禮助爰元へ罷越、巨市式百八十兩返弁方道付無之候而八三
千兩調金之相談難相整旨申聞候付、式百八十兩之儀ハ追々吟味
取調之上返濟候義可申付、右二付、朝鮮木綿先納三千兩調達不
相調段無是非次第二付、厚く及挨拶候様作之進へ差含置候処、
式百八十兩之義ハ三ヶ年賦と歟如何様共相極り候ハ、内輪評義
之道も可有之旨、禮助申出候段、財部ら仙八を以申来

町役格長崎屋益助、御主法方御用二付、長崎へ召仕置候処、流
行之暴瀉相煩、去ル廿一日於長崎令病死候段、町役ら及案内

七月廿八日 晴天今日之炎蒸、殊之外

松浦郡横田上村・濱崎両村患病相煩候もの有之、手代中迄大庄
屋ら申出候段、仙八ら申出、怡土郡吉井村へも相煩候もの有之
由、御役場ら役方へ以書状申越、来状いづれも被見ニ差出

養父村喜右衛門義、当春大坂御廻来仕出之節、於水屋濱喜右衛
門并同村佐右衛門上納米之内、米拵方不宜候付、役筋見分之上
一俵ツ、都合式俵差戻代米之義、高田村ら当時借受津出上納相
濟、右米之義ハ式俵共藏番へ相預置候由、然処其後義倉米藏詰
之節、喜右衛門納前式俵有之候を瓜生野町ら借受相納候段、庄
屋迄申出罷在、近来ニ至右勿米之行衛不相知候付、庄屋ら及尋
問候処、喜右衛門ら一向不存旨申出候由二付、水屋藏番へ及穿
鑿候得ハ喜右衛門へ右之勿米式俵附取候ニ相違無之相聞、猶又

喜右衛門手元及吟味候処、義倉米蔵詰之節、瓜生野町に借米之姿に申納、右之刻米式儀義倉に相納候段、庄屋吟味之上令白状候旨遂案内候、全体御上納米大切成義に申達迄も無之候処、俵拵等疎略いたし其上種々虚偽申出、剩佐右衛門米迄も掠取候段、重々不埒のものに付、頃日禁足申付置、此上嚴重申付方も有之候へ共、各別之加宥免、村方胴柱にをみて二日晒し禁足差免、以来人柄可相改旨、及書達

瓜生野町痲病流行に付、同町 祇園社にをみて今日も二夜三日祈禱仕度旨願出候段手代中申出、承届

七月廿九日 晴天今日も炎蒸烈し

兆徳院様御忌日に候得共、少々不快に有之、御寺詣不仕

八月朔日 晴天今日も炎蒸烈し

八朔為祝辞地役中已下罷出候付、例之通於席に受礼

手代中且格式之面々布上下着、机之間次へ折廻り列座

御扶持人中、表本座之次へ同断

同嫡子中、右同所列座當時無之

但、手代役緒方仙八披露、已下同断

東明館訓導師青木文造、右同所

生子養育差配役、右同所

御目見医梁井吉十郎、右同所

但、養育に付、不罷出

役医中、右同所

同格中、右同所

郡目付永瀬卯兵衛、右同所病氣不參

御主法方書付篠原崎藏、表玄闕之間

買物番喜左衛門、右同所禁足中に付、不罷出

三組中、内玄闕之間

馬医江崎吾七郎、表次に間当病

同格源四郎当病右同所

田代町役中、右同所

瓜生野町役中、右同所

木山口別当櫻井恒四郎、右同所当病

三郷大小庄屋中、右同所

庄屋子供中、表玄闕之間

右畢而御本家へ罷出、於寄合之間、奥役面会互に祝詞申述候格

二候へ共、奥役病氣引入に付、於不斷所致面会

寄合ノ間へ奥役に祝被差出候付、手代中格式之面々、祐筆・

考鑑方・用銀掛・玄闕番へ口祝遣之

財部・古川・内山、為祝辞入来有之

内山へ為祝詞相越

御扶持人九人、且橋本莊左衛門・岩谷善作より御主法立に付、

年割獻金願出居、当年納前半數八盆季相納、殘半數八九月中上

納之義申出居候へ共、いまた聞届之返答不相達候処、御主法方
当用御銀繰差支候段、財部・古川へ相談有之候付、右献金引当
を以金五百両一步之利付ニノ作略御貸上候義、十一人へ緒方仙
八を以差含

若津問屋先後屋伊作義、御借金一条二付、爰元へ罷越居、兼々
財部右衛門へ対面之義申出候と相聞候付、致応対度之由、財
部へ相談有之、差支間敷旨、奥役同然及返答

小倉齡助江朝鮮木綿仕組二付、三千両先納之義、喜十郎・甚右
衛門・巨市、差引体ニ不拘取極ニ相成義候ハ、一応御国へ何越
可及熟談旨致返答度との義、財部へ相談有之

小人藤平、三組御雇儀平義、長崎へ漂民警固として差越置候処、
令帰郷候段、届申出

土地方吟味・山方兼緒方織衛義、御主法方御普請中作事掛兼勤、
同所引切申渡

六十人橋本庄左衛門義、製蠟方功者ニ相聞候付、御主法方日勤
板場晒場へも罷出候様申付

八月二日 晴天今日も温気強し

江戸表佐須伊織殿へ大江・恒右衛門へ之御状相達、左之条々被
仰下

一於民様御事、石川主殿頭様へ御縁組御願之通、五月廿二日被
為蒙仰候との事五月廿七日付

一外国御交易御取開候付、彼国之金銀其低通用可致旨、従公
義被仰出との事五月廿七日

一世上通用之為、此度式朱銀吹立被仰付、壹歩銀・一朱銀八追
而吹直、小判一步判之儀ハ此度吹直、保字小判壹歩判追而停
止可停止可被仰付被仰出との事五月廿七日付

一百姓・町人共、衣服冠物異風之身形致間敷旨被仰出候付、御
領中へも相触候様との事六月三日付

一此度吹立被仰付候新小判壹歩判・式朱銀之儀、六月朔日へ通
用、其外保字小判・壹歩判ハ新小判一步判并式歩判・式朱金
取交御引替之筈ニ候段被仰出候との事六月三日付

一魯西亜・佛蘭西・英吉利・阿蘭陀・亜墨利加、五ヶ国交易御
差許ニ相成、当六月へ神奈川・長崎・箱館ニをみて商人共勝
手商売之義、且官服已下五品ハ外国人へ相對商売不相成旨、
被出候事六月三日付

一右五ヶ国江為御取替相成候条約書写五冊并御書取一通、外国
御用御取扱御老中間部下総守様へ御渡相成候との事六月廿日付

古賀八郎妻、痲病にて相果、同人且青木小藤太・同藏太、忌中
之届申出

緒方仙八同母之兄相果候段申出候得共、忌者無之故障にて引入
候而八手代中いつれも旅行・病氣・忌中ニ而差支候付、出勤方
幸之進へ相達

八月三日 晴天今日も残炎強し

使番種八、長崎へ召仕置候処、夜前帰郷いたし候旨、届申出

御主法方会日二候へ共、召仕無人故不罷出

八月四日 晴天今日残炎強し

御用日二候得共、奥役引入中、殊差掛候御用無之、寄合不仕也

同五日 陰天口之下刻は白雨
昼後晴

使番多平義、御主法方使番病人有之、人少差支候付、当時之間、

多平義御主法方引切申付候段口達

宮浦西村利右衛門義、御主法方御普請召仕、勝而令出精、職業

功者二相聞候付、木挽棟梁申付

八月六日 晴天今日残炎強し

同七日 晴天残炎強し

(第二代藩主義喜)天龍院様御向月忌二付、麻上下着、古川同然御寺詣仕

御主法方会日二候得共、今日故障有而不罷出

古川入来

八月八日 曇天残炎強し

御用日二付、会席へ罷出、奥役引入中二付、於不斷所致面会

古川裕作次男四歳にて疱瘡相煩、虫気差加相果候段、御国便有之、御茶屋へ悔二罷越

御扶持人之内九人并橋本莊左衛門・岩谷善作を金五百兩御借上

之義、差含置候処、作略可御用立、尤一步之利足(息)ハ御附被下候

様御受申出、尤右之内式百兩八十月迄二調達之筈二候由をも仙

八申出本文五百兩ハ獻納金願出居并先納二可仕利足二及申旨、申出ル

宮浦東村之内秋光二罷在候若宮兵庫次男芳平と申者、若党二相

雇居候処、若党之人品二無之候付暇遣、今日宿元へ帰ス、是迄無別条相勤候付、木綿縞一反与之

同九日 晴天残炎強し

啓祐院様向月忌二付、麻上下着、昌元寺へ御寺詣仕

今朝内山入来

松浦郡玉島宮放生会二付、作並も宜相見旁人氣引立として晴天

五日之間、芝居興行仕度段、大庄屋市丸喜八郎を以書付願越、

手代中を取次差出候得共、近来御時勢も違候故難聞届、願書差返

八月十日 陰天残炎尤北風にて
凌よし

同十一日 陰天残炎ハ強候へ共、北風二而凌よし

使番喜三治・種八義、下横目兼勤二而御普請場引切勤申付、及

書達

- 、田代村大工吉平義、御主法方普請場へ召仕候処、勝而令出精候
- と相聞奇特之至ニ付、及沙汰為褒美鳥目三百文相与候段及書達
- 、去ル三日河内村へ筑前一ノ瀬越之途中、麦粉荷行候もの有之、
- 印銭方手先見咎候処、麦粉其假捨置逃去、何方之者共不相知候
- 付、先例も有之印銭方受取被仰付度之旨、緒方仙八伺出、聞届
- 、田代町大工平助・田代村大工吉平義、御主法方御普請中、墨棟
- 梁申付候段、及口達
- 、使番喜三治義、諸富へ差越置候処、為代小人清右衛門差越、喜
- 三治帰郷申付

同十二日陰天時々雨降

、大願院様御向月忌ニ付、麻上下着、昌元寺へ御寺詣仕

、小川又三郎殿、爰元にて死去百回忌相当ニ付、兼而丹下殿へ茶

長崎御奉行支配
調役並

金三百疋

附目錄

のし包添

島田音次郎殿

旅宿長崎屋

相越、対面之上御礼等懇ニ被申聞

、就右、供廻り例之通ニ付、略之

但、玄関番古賀国太、小人御雇治八罷出

、帰宅之上、供頭・先徒・小人江飯・酒振廻

、御用日ニ付、会席へ罷出、奥役引入中ニ付、於不斷所対面

、土地方吟味役・東明館学頭緒方連義、手代役人少ニ付、当時助

勤申渡

、同人義、大坂廻米船一件ニ付、諸富へ被召仕候間、緒方一郎引

替御締宜相勤旨及口達

、土地方吟味役・山方役兼荒木平内義、製産掛・作事掛兼勤、御

普請方引切申付

、製産掛・作事掛兼古賀覚之助・松田小十郎義、製産方引切申付、

御普請方之義も御用便宜相心得方申付

、目付役永瀬大五郎義、製産方へ被相附候旨申付

、製産掛四人、向後老人ツ、夜番可相勤旨申付

八月十三日 晴天北風ニ而大ニ涼シ

、御主法方会日ニ付、罷出

、御国 八幡宮御祭礼ニ付、御本家玄関前へ神灯十五張、今晚奥

役へ灯之

但 十四日晚表役、十五日晚賄役へ灯之

、緒方連、今昼へ諸富へ出立之段、届申出

右長崎表御用相済帰府爰元止宿、今未之刻過着有之候付、御音

物之儀、前以宿亭主を以為差出置、接者義肩衣着、見廻として

同十四日 晴天

、門司金十郎、石州々今昼帰郷、致対面

、石州御貸附金之義、去年中利足相納、元金当年中御貸居之儀、

願通御聞届有之候段、金十郎申出

但、川北弥右衛門々泉屋勘助口銭之義、元金一朱方ニ減少申

談候趣も申出

同十五日 陰天

、当日為祝詞地役中并青木文造、両町役罷出候付、例之通於机之

問受礼

、御用日ニ付、会席へ罷出、奥役引入中ゆへ於不斷所面会

、緒方一郎、諸富々今夕帰郷致対面

、御国 八幡宮御祭礼ニ付、煎染物にて手代中へ御酒振廻、大工

多兵衛も来

、今晚名月ニ付、内繁・於民との入来也

八月十六日 陰天昼比々雨降

、江戸御左右到来、各国舶来之武器類買請方ニ付、從 公儀左之

通被仰出候段、六月廿一日之御状ニ被仰下

大目付へ

各国舶来之武器類開港場へ見本為差出候間、万石已上已下諸

家陪臣ニ至迄買受候義不苦候、望有之面々ハ勝手次第最寄開
港場運上役所へ罷越承合候様可致候

但、芝生町新道々南横濱町迄之場所ハ混雜いたし候間、馬

上又ハ馬牽入候義無用ニ候

右之通可被相触候

六月

、製産方板場普請成就、今日々蠟々取始ル

但、蘭々式挺、地獄々三挺、立木々式挺、相設候事

、近来痢病流行之処、幼若之者共ハ不熟之梨子を食し相煩、老幼

共痢之機し有之候へハ、久留米六丁目之商葉を求相用、腹を留

候故死亡ニ至候ものも有之と相聞、且又暴瀉相煩候もの、けし

からを煎し相用、瀉ハ止り候へ共、忽腹はり死亡ニ至候もの有

之、畢竟卑賤之者共弁も無之次第不便之至ニ付、右之品々向後

不相用様、在町役人々末々迄言聞かせ候様可申付旨、緒方仙八

へ相達

、御領中川凌、東土井腹付、水屋悪水抜川堀（つり）之儀、追々評義ニ相

成居、如何之手運ニ相成可宜候哉評義候様、仙八江差含

八月十七日 曇天

、目付仮役岩谷卯左美義、御普請場へ相附置候処、製産方をも相

兼双方御用便宜御締方無抜目可相勤旨申渡

、目付役永瀬大五郎義、製産方へ相附置候処、御普請方をも相兼

双方御用便宜御締方無抜目可相務旨申渡
、浄元院様御忌日ニ候へ共、供差支候候付、御寺詣不仕

八月十八日 雨天

、今朝財部入来、左之条々相談有之、同意之段及返答

一 下毛筋御借金先後屋伊作口入之分、元金貳千九百十七両余

一 一割方此節返済、現金八当暮相渡候事、尤残金之分八金十

両ニ付、米一俵之積を以、今明式ヶ年相渡、三来年ニ至、

先納ニ為致御扶持被下ニいたし度事

一 先後屋伊作此先キ心配之様子ニ依、月々三人扶持計被成下、

別段金百五十両拝借内願いたし候由

一 御主法方蠟晒場手狭ニ付、下町裏之島御坊所際迄買入候事

、御主法方会日ニ付罷出、出勤掛板場取開後初而致見分

同十九日 陰天朝之内雨降

、御用日ニ付、会席へ罷出、奥役引入中ニ付、於不斷所致面会

、唐坊荘之介、長崎へ被召仕置候処、明日爰元へ着郷之積、先

触相達

、財部、奥役へ入来致対面、先後屋伊作相談向、順熟之趣申聞

八月廿日 ※天候記載なし

、唐坊荘之介義、就御用長崎へ召仕置候処、御用相濟此せつ帰国

博多へ乗船之積にて今日当所江着有之、此方へ止宿

但、一昨年大島友之允、爰元入込之振合も有之、道中継人

足之俣、御屋敷へ参着也

、町口迄迎として若党差出

、就右、奈良茶料理且押一膳、木具盛一膳、酒宴盆一枚、肴鉢数

六にて御酒さし出、奥役・財部入来、古川八病キ、内山八孫娘

病氣ニ付入来無之

同廿一日 曇天

八月廿二日 雨天

、御主法方会日ニ候へ共、眼氣ニ付、不罷出

、奥役亡父七回忌法事ニ付噂有之、罷越

同廿三日 雨天

、御用日ニ候得共、眼氣ニ付、不罷出

、内山喜三郎娘くに、今夕病死

但、去ル七日暁出生、十七日目相果也

、下村洪水出、今未之下刻迄老丈一寸迄出水、いまた出増候段、

案内申出

同廿四日 晴天

、下毛村洪水、今辰之刻迄卷丈三尺五寸二及、いまた出増候段、案内申出

同廿八日 晴天

、今夕、内山娘葬式之手数有之

、足軽万右衛門、御旗貞右衛門義、今朝爰元へ致着候段届申出、御勘定所之添状来ル

同廿五日 晴天

、下毛村洪水、昨廿四日未刻迄卷丈四尺五寸二及相満、申之刻之引口相立、今廿五辰下刻迄卷丈八寸引、残水量木老丈式尺七寸迄引落候段、案内申出

但、田中久米輔弟寛左衛門、御国元致出奔候付、捕方として被差越、下毛関之博多通罷越候由

八月廿九日 晴天

八月廿六日 晴天

、御用日二付、会席へ罷出、奥役引入中二付、於不断所御用向申談

、兆徳院様御忌日二付、御寺詣仕

、奥役病中為養生園部へ遊歩、緒仙方へ立寄、帰宅及鶏鳴候由也
、松平肥前守様、為御参勤来月七日佐嘉表御発駕、^(轟)裏木御泊、田代通御通行御先触相達候旨、町役之申出

九月朔日 晴天

、下毛村洪水、今朝迄川内江引落候段、案内申出
、宮浦東村秋光之若宮兵庫義、妹千代と申者、無切手にて長崎へ罷越、於彼地相煩、為看病悴数衛依願相越、千代快方二付、出立之心得にて御屋敷へ切手為受取罷出候留守、千代企出奔引衛不相知旨庄屋之案内申出、兵庫兼々家内示方不行届二付、急度申付方も候得共加用捨禁足差免、已来可心用旨、及書達

、当日為祝辞地役中・青木文造・両町役罷出候付、例之通於机之間受礼

同廿七日 雨天

、唐坊噂ニ而今晚奥役并仙八・小藤太・金十郎入来、及鶏鳴相濟
仙八大分醉

、御用日二付、会席へ罷出、尤奥役引入中二付、於不断所致面会
、田代町別当荒木彦次、町年寄荒木一郎次、禁足申付
、外町組頭荒木十兵衛并勘左衛門、不心得之儀有之、禁足申付
、古川裕作、病後初而入来有之

九月二日 晴天

、今巳之刻比出宅、奥役同然下モ村東土井ノ水屋御蔵所、高田・安樂寺・真木村迄致廻在、酒井東村・高田村、八坂甚兵衛宅にて休息、手代役青木小藤太同伴、先払御門番仙藏罷出、鎧持者相省

但、唐坊莊之介同伴

、重富鼎、今夕当所へ罷越候由

、江戸表佐須伊織殿ノ御状相達、大江・恒右衛門江左之趣被仰下

、今度訳官使渡来ニ付、御取賄御入料御手当御願有之候処、御

老中間部下総守様ノ御留守居御呼出、御金貳千両御手当被蒙

仰候段、七月十一日付を以被仰下

、右金御引替御手当増割合等左之通 公義ノ被仰出候間、得其

意御領中へ相触候様、七月三日付を以被仰下

大目付へ

右金引替差出方之儀、今度小判一步判吹立并保字小判壹歩

判歩増通用被仰出候付、此後引替差出候者へ八道法遠近ニ

不拘手当相増之割合左之通

慶長金

一 武蔵判 百両ニ付、代金貳百五十八両

一元祿金百両ニ付、同百七十八両

一 乾字金百両ニ付、同百三十五両

一 享保金百両ニ付、同貳百六十両

一元文金百両ニ付、同百五十両

一 真字貳歩判 百両ニ付、同百三十両
一文政金

一 草字貳分判百両ニ付、同百貳十三両

一 五両判百両ニ付、同百五両

右之通増歩御手当被下、引替人御手当之儀ハ是迄之通都而百両ニ付金貳歩ツ、被下候間、聊も不貯置、江戸・京・大坂、其外諸国引替御用相勤候者共之内へ差出、早く引替可申、若

此上貯置候者於有之ハ糺之上急度可及沙汰候間、御料ハ御代

官、私領ハ領主・地頭ニ而其旨相心得入念可申付候

、外国人へ海上又ハ途中ニ而出会候節、書状届方頼まれ或ハ品

物など贈候節之心得方從 公義被仰出候間、得其意御領中へ

相触候様、七月三日付を以被仰下

大目付へ

外国交易御取開有之、外国人開港場へ船を寄、其最寄居留を

も差許相成候而ハ其所之ものハ勿論、海上又途中いつれの

場所ニ而も外国人ニ出会候節、書状届方等頼れ或ハ品物など

贈候共、堅断可及、若若無余義請取候儀有之ハ右品持參、委

細之儀早々其筋へ申出へし、隠し置後日相頼ニをゐてハ吟味

之上、可被処罪科もの也

右之趣、御料・私領・寺社領共、不洩様可触知候、尤天保

十三寅年被仰出候浦々建札ハ取払可申候

、西洋書籍直買之儀ニ付、從 公義左之通被仰出候段、七月十

一日付を以被仰下

大目付へ

西洋書籍之儀ニ付而ハ兼而被仰出之趣も有之候処、今般神奈川・長崎・箱館開港之上ハ右場所々々(トク)をゐて外国商人共

も直買いたし候書籍ハ運上改所へ差出、改印請候様可致候、若心得違にて改印無之、聊ニ而も御制禁宗門之事ニ相渉候書籍類取扱候者有之ニをゐてハ可被処嚴科候

於民様・於定様御縁辺御取組ニ相成、御入料仕向方御国御同列中へ被仰達候処、四百拾七両余爰元も送下前有之候を江戸仕向之 御差図被及候旨申来

於定様ニハ九月御結納、十一月十二日三日之比、御入輿之御決定ニ付、九月初旬迄江戸へ相達候運致仕向之様との事、七月廿三日付を以被仰下

九月三日 陰天

御主法方会日ニ付、奥役同然罷出

訳官御手当被蒙仰候付、明四日為恐悦地役中已下先例之通御屋敷へ罷出候様可及触達旨、手代中へ口達

小人傳助病氣ニ付断申出、願之通差免、代り田代町栄助召抱

九月四日 晴天

訳官御手当金貳千兩被蒙仰候付、麻上下着御本家へ罷出、於会席奥役面会、互ニ恐悦申出、賄役内山繁左衛門も出勤也

手代中、格式之面々於寄合之間恐悦之旨申出、奥役も御国元へ可申上旨、会积有之

右畢而奥役同然御広間へ出席、二ノ間南向一列ニ着坐

御扶持人中・大廻船差引役・東明館訓導師・生子養育差配役・役医・郡目付・書手・買物番・三組・両町役・大小庄屋中・六十人、南椽類へ順々罷出、恐悦申出

但、訓導師已下ハ手代役門司金十郎披露仕就右、表御門開之

但、前々ハ前晚も御門開、挑灯をも灯し候先例と相聞候付、

已来ハ不及其儀、御祝詞当日計御門開候様、嘉永七寅年閏七月六日御鞍鐙御拝領祝詞之節、手代中へ申渡置、當せつも其通り也

御領中川浚・東土井腹付・水屋悪水拔溝堀(掘)之義、如何様手運相成可然哉之旨、八月十六日仙八へ差含置候へ共、今日迄答不申出候付、猶又評義之儀、小藤太へ差含

九月五日 晴天

城戸村堤浚見物、奥役并与頭中唐坊・重富同伴有之候由

同六日 曇天時々小雨

同七日 陰天

、松平肥前守様、為御參勤明八日爰元御通行ニ付、財部・古川、

東明館へ引移之儀申来

、右同断ニ付、地役中今晚致夜詰

、若津問屋先後屋伊作口入御借金式千九百十七兩余之分、一割方
来ル十一月中返済、残金之分ハ金十兩ニ付、米一俵利足(息)として
可相渡旨、財部も及応対置候処、伊作引取候上銀主共へ及示談
候処、森脇和吉網屋口ハ無異義致承知、政吉丸船頭口ハ御受可申
出筈之処、大坂御奉行所へ致出訴居候故、兵庫へ罷歸銀主へ相
談之上、追而可及返答、右丈ニ御主意御付被下候義候ハ、出
訴等今更致後悔候由、小倉いせ屋助右衛門口入にて道海島庄
屋も借金之分ハ屈服いたし兼居候間、近々爰元へ罷越候義も可
有之趣、御主法方手先森八歸郷申出候段、財部・古川も幸之進
を以為知来

但、金十兩ニ付米壹俵被下候を銀主中へハ百兩ニ付一人扶
持被下候様ニ致披露候様申合、此節一割方御渡被下候義ハ
一切沙汰不仕秘し居、日田銀主・肥前金善なども聞合も有之
候へ共、右之趣を以相答居候故、御爰元も堅相心得候様、
伊作も申出候由

九月八日 晴天

(轟)

、松平肥前守様、夜前裏木御泊りニ而今卯之刻過、爰元御通行有
之、就右、奥役町口迄御迎送被相務候筈之処、不快ニ有之、拙

者も同様ニ付、賄役内山繁左衛門代勤被罷出

、繁左衛門代勤ニ付、供廻左之通

文政十二丑年、長崎御奉行御通行之節、賄役倉田万兵衛御
迎送勤代勤ニも同様也、其比之日帳無之、浅野覚書ニ有之

- 一先供式人 郷
- 一若党式人 内一人使番
内一人手人
- 一草り取一人 手人
- 一立傘持一人 郷
- 一鍮持一人
- 一挾箱持一人 郷
- 一駕籠夫四人 郷
- 一合羽籠持一人 郷
- 一挑灯持 四人 郷

但、佐役も代勤之供連も此通也

、地役中、夜白相詰候付、先例之通今日休日申渡
、今晚財部入来有之、奥役も歸り掛也

九月九日 曇天早も雨降
巳之刻比地震

、重陽之為祝詞地役中已下罷出候付、拙者麻上下着、例之通受礼
一手代中且格分之面々、机之間次ニ列座
一御扶持人中・大廻船差引役青木厚三郎、表次ノ間折廻り列座
但、厚三郎義、御扶持人末席申付有之候へ共、幼少ニ付、

不罷出

- 一 東明館訓導師青木文造、本座之次ニ罷出、披露手代役緒方仙八
- 一 生子養育差配役、右同断
- 一 役医中、右同断
- 一 同格中、右同断
- 一 郡目付中、右同断 当病不罷出
- 一 御主法方書手篠原崎藏、表玄闕之間
- 一 買物番喜左衛門、同所ト
- 一 三組中、内玄闕之間へ罷出
- 一 馬医江崎吾七郎、表次ノ間へ罷出
- 一 同格源四郎、右同所
- 一 田代町役中、右同所
- 一 瓜生野町役中、右同所
- 一 木山口別当格櫻井恒四郎、右同所
- 一 三郷大小庄屋中、右同所
- 一 庄屋子供中、表玄闕之間
- 一 右畢而御本家へ罷出、於寄合之間、奥役面会互ニ祝詞申述
- 一 財部万右衛門・内山繁左衛門も出勤也
- 一 於寄合之間、例之通奥役ト口祝被差出、表役ト奥役へ、奥役ト表役へ互ニ挟合、財部・内山并手代中・格式之面々、且用銀掛・留役・祐筆・考鑑方、玄闕当番へ奥役ト口祝被挟之
- 一 奥役ト唐坊へ餞別振廻有之、致相伴

〆御賄へ当日祝詞として罷越

〆奥役・古川・財部・内山入来有之、菊酒差出

九月十日 〆天候記載なし

〆惣穂見として手代三人、土地方吟味、目付役、三郷へ罷出候段届申出

〆御主法方御繰合差支候付、八坂甚兵衛・松田小十郎、晒蠟相預金四百両自分才覚を以御貸上候義差含方評義之上、奥役へ右兩人相招申達

御普請役

金貳百疋

浅野磯二郎殿

附目錄、のし包添

右長崎へ被相越、今申之刻過旅宿肥前屋へ止宿ニ付、被遣之御品宿亭主を以為差出置、拙者義見廻として肩衣着罷出、体面之上御礼等被申聞

〆太田備後守様、依御願御退職之由

〆大坂御城代土屋様、御退役之由

〆伏見御奉行御永勤之処、御退役之由

〆小金原へ水府御家中陣小屋相設、追々と穩之方ニ有之由、向島御屋敷へも追々罷登候との風説実事之由

〆内山ト唐坊へ餞別振廻有之、樽ニ依拙者も罷越

九月十一日 曇天 今昼比地震
昼後々時々雨降

三郷村々へ惣穂見として手代役・土地方吟味・目付役罷出候段、
届申出

昨日・今日にて相済

同十二日 曇天

御用日ニ候得共、奥役不快之由ニ付、寄合不罷出

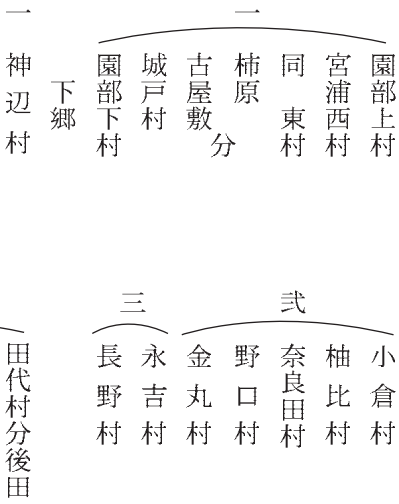
廣瀬源兵衛名代として麻生豊介爰元へ罷出候由にて入来、土産として色半切式百枚致持参

但、銀会所繰合行詰候付、御主法方役々へ示談筋ニ付、罷

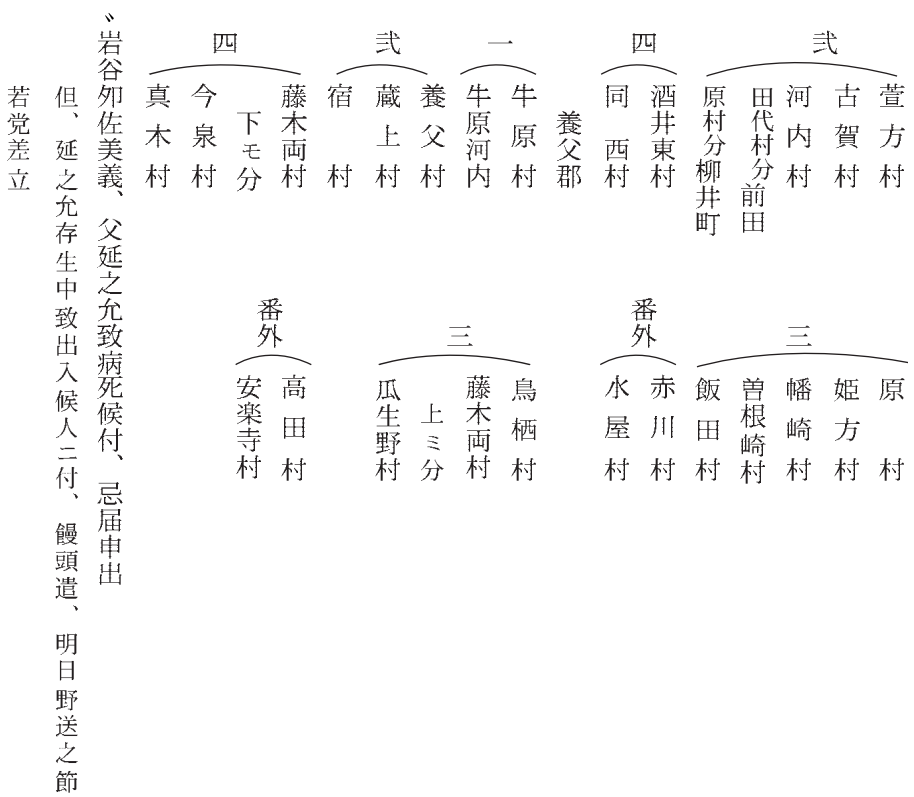
越候事

三郷村々田毛上附、大庄屋々之案内書手代中取次差出、左之通

上郷



九月十三日 晴天



、御主法方会日二付、奥役同然罷出

、土地方吟味役・山方兼緒方織衛義、持役之内に御普請中作事掛引切兼勤申渡置候処、持役繁多之時節二相成候付、作事掛引切兼勤差免、是迄苦勞之段、会积申渡

、土地方吟味・山方兼荒木平内義、製産掛・作事掛兼勤御普請方引切申付置候処、持役繁多之時節相成候付、引切兼勤製産方夜番をも差免、是迄令苦勞候段、会积申渡

、目付役助勤門司範造・櫻井富衛義、製産方且御普請場へ当時引切立会申渡

、作事掛大石洌之介義、持役之内に御主法方御普請引切勤申渡

、御門番勇平義、御主法方引切勤、蠟之者共取賄申付置候処、病氣断願出差免

、御門番茂右衛門義、勇平為代蠟場へ引移、蠟共取賄いたし候様申付

、使番喜三治義、茂右衛門代り文武館見かしめ申付、右之内に御主法方引切勤是迄之通相心得候様申付

、今晚名月二付、少々酒肴相設、奥役・内山・小藤太・金十郎入来、於民との同断

九月十四日 晴天

、田代町別当荒木彦次義、去月廿五日外町天満宮神祭二付、町内為賑接待相立人形相飾、浄瑠璃相催度段、町中願之趣別当に伺

出候得共、当年之義、祇園会へ釣合も有之御時体柄右体之義致間敷旨堅差図二及置候処、十兵衛組権七、組頭勘左衛門方へ人形相飾候段相聞候付、早速及吟味候処、無相違旨白状之趣申出、別当役之義八町中之締方別而心を付、達筋相聞候様可致之処、大様二打過候所は右様不心得之者も出来、勤向不行届之至二付、禁足申付置候得共、各別之憐愍を加、此上之不及沙汰禁足差免候条、已来勤向可入念旨申付

、町年寄荒木一郎治義、右同断天満宮神祭之節、荒木十兵衛組権七、組頭勘左衛門宅へ人形相飾、達之旨を背、全体町方触達等之儀八別当・座親に申付、其後之守否取締方之儀八心を付立廻等も可致之処、一郎治義、座親病氣二付、別当一同達方等八致候もの、守否之取締方居町之儀と申、大様等閑二打過候段、勤向之本末を取失不心得之至二付、禁足申付置候へ共、各別之憐愍を以此上之沙汰二不及、禁足差免候間、已来万端心を可用旨申付

、田代町役格組頭荒木十兵衛義、去月廿五日外町天満宮神祭二付町内賑之為接待相立人形飾浄瑠璃相催度段、組中咄合之旨別当に伺出候得共、御時体柄二付、右体之義致間敷旨申付置候処、其旨不相守、飾物二人形相用候段相聞候付、以手筋及吟味候処、先年祇園山之残人形を差出、十兵衛組権七宅へ相飾候段無相違旨令白状、右様達筋二悖り候儀は組合中へ急度可令叱教之処、無其儀不心得之至二付、頃日禁足申付置、此上申付方も候へ共、

各別之容赦を加、組頭差除禁足差免候条、已来万端可入念旨申付

一組頭勘左衛門、荒木十兵衛組権七義右同断、以手筋及吟味候処、十兵衛組二八権七宅へ先年祇園山之残人形を取出し飾付、勘左衛組二八曾根崎村へ借受、自分宅へ相飾候段無相違旨申出、不埒之至二付、禁足申付置候、右様達之旨を背キ候儀ハ組合之者共へ嚴重可相示管之処、勘左衛門義組頭をも相勤候身分不届千萬剩兩人共自分宅へ相飾候段、重々不埒之至、此上取糺申付方も候得共、各別之容赦を加、勘左衛門義組頭差除、兩人共科料老々文ツ、申付禁足差免候条、已来万端心を用候様申付

一荒木十兵衛組 已下 人、勘左衛門組 已下 人、右同断達之旨を背不心得之者共二付及吟味候処、寄せ物等仕候器物も無之、只々手易暫時ニ出来候所而已目を付、人形相飾候段恐入候旨申出、全体寄セ物等可致器品無之候ハ、可相止義二候処、手易ニ出来候迎人形飾申談候段、町役之違背不埒之者共二付、屹度申付方も有之義ながら各別之慈悲を加、一人科代夫十日充申付候条、已来万端可入念旨申付

九月十五日 晴天

当日為祝詞地役中并両町役罷出候付、例之通於机之間受礼、御用日ニ付、会席へ罷出
、牛原村郡右衛門義、先年道光山二をみて(マ)礎焼立居候処、諸職

人手少ニ有之、肥後国宇土郡畑田村栄之助并女房、娘兩人、当従業員雇入度旨庄屋へ願出、聞届

但、御主法方へ銀子貸渡、一ト竈築増、(マ)礎売弘方申付候付如此

、買物番喜左衛門父喜十郎、瓜生野町青木甚右衛門義、御国竹買取相渡候約定ニ而小倉製産方手附伊勢屋助右衛門へ金式百八十両受取居候処、相談向不都束之儀有之、右金子取込致不埒之段吟味之上令明白、就小倉製産方手代吉村齡助爰元へ七月已来逗留、右金子埒付方并朝鮮木綿買取懇望之段、追々財部万右衛門并草野作之進面会応対之品も有之、然処喜十郎・甚右衛門義、貧窮ものにて返金之手段無之、依之三ヶ年賦位ニ相成候ハ、取立返済為致可申旨、齡助へ申談候処、引受心配可致旨申出候由、就右青木小藤太・草野作之進義、町本陣ニをみて齡助面会及示談候様相達、双方咄合之趣書付為取替被見ニ差出、委細日記ニ詳

記ニ詳
、瓜生野町青木甚左門義、前文武百八十両之内、八十両ハ其身借入之分小倉へ立越及頼談候ハ、永年賦或ハ棄損等之義も可出来哉ニ付、小倉へ同道之儀、齡助へ令内願候由、財部へ御役談有之旨、手代中へ左之口達書相渡

瓜生野町青木甚左衛門義不心得儀有之、禁足申付置候処、此せつ小倉製産手代吉村齡助へ申出候品ニ依、同所へ罷越候義差免、旅中月代等不苦候、尤用向取片付候ハ、早

々致歸郷候様可被申付候

九月十六日 晴天夜戌之刻地震

、今日吉辰二付、当作之平米式十五俵、三郷々献上仕、御本家寄
附ニをみて大庄屋、例之通御口祝被下之、手代中致差配
、就右、三役へも例年之通、平米三俵充進上仕、大庄屋持参、台
所々以取次差出

、在方吟味役財部万右衛門・古川裕作へ平米老俵充差出

但、兼而手代中へ伺出及差図置也

兩人へ一俵ツ、差出候筈二候処、兩人中二一俵差出居候由
申八月廿四日緒方仙八へ財部へ致囀候との義申聞不都合也

九月十七日 晴天今晚寅中刻少し地震

、鍋島加賀守様肥前加島為御参勤今日人馬繼にて辰之刻過御通行相濟
候段、町役へ届申出

但、御泊或ハ御昼休等にて御茶屋へ御入被成候へハ、奥役
御機嫌伺として罷出、御同所様よりハ以御使者金貳百疋被
下候先例二候へ共、当せつ下町長崎屋へ御駕籠建有之、御
茶屋御通拔二付、伺御機嫌等不及也

同十八日 雨天

、御主法方会日二付、奥役同然罷出

、御主法方仕繰合二付、銀会所且御領中甚以不融通二付、いつれ
と歎工風を不付して難叶、就夫御借金払潰二付、七ヶ年割献金
願出居候を相見合、余米取之面々々老万俵ツ、三ヶ年御借上之
儀、財部へ相談有之候へ共、不容易次第奥役へ返答有之、拙者
も同様申述

九月十九日 晴天

、御用日ニ相当処、財部・古川入来有之、会席へ不罷出
、荒穂宮神祭二付、手代役門司金十郎致社参候段、届申出

、右同断二付、為警固目付役一人罷出候筈之処、所々立会且病氣
故障等にて差支候段申出候付、祐筆見習橋本雄吾当日助勤警固
罷出候様申付

、奥役・内山入来、財部・古川寄合ニ相成、御領中余米取之面々
々老万俵高御借上儀、三ヶ年之間御借上と申候而ハ難義可致
相見候ハ、当年一ヶ年御借上と相成候而も御主法方繰合も宜、
右米を売払、正金銀会所へ差入候得ハ同所繰合も糞ギ、然上ハ
御領中融通も宜可相成見込之趣、財部へ役談有之候へ共、余米
借上之義ハ一体之気服ニ相拘り万二御手入等生候而ハ不相濟、
奥役へ返答有之、拙者も同様相心得候付、外ニ宜キ工夫ハ有之
間敷哉之旨及返答、終ニ余米借上之評義ハ相止、七ヶ年割献金
願出居候分を三ヶ年割上納相論候而如何可有之哉之旨、奥役・
古川心付評義ニ相成、此一条ハ下モ江相達候時差支候筋ハ無之

相見候付、猶又手代中了簡をも聞糺、其上にて決評可然旨、相談ニ相成候也

九月廿日 晴天

御用有之奥役へ罷越、於不斷所財部・古川・内山寄合

昨日内評ニ相成居候今度御主法立ニ付、在町々七ヶ年割献金願出居候を三ヶ年割上納相論如何可有候哉之旨、緒方仙八・青木小藤太・門司金十郎呼出、存寄承り候処、御領中へ御買上之櫛代其外御渡方之滞りも有之、いづれも令難洪居候只中ニ付、當時献金繰上之御沙汰御見合置被下候ハ、追々ニハ繰上之諭方も可有之旨申出、左候而ハ面り当暮御主法方御凌難相立ハ勿論、銀会所行支不安次第ニ相見候付、奥役心付發立有之候ハ御領中余米取之面々へ米老万俵を札物にて買上、右米他所へ現金ニ売払、正金三千両程取入銀会所へ差入候ハ、同所繰合相開ケ、左候ハ、自然と御領中融通も可宜趣心付被申聞、一座尤ニ同意ニ相成ル

三郷村々田捨例明日へ追々取掛候段、大庄屋へ届出候旨、手代中申出

今晚寄合之席ニ而御国御年寄中并御勘定奉行所へ之御状簡、濱崎へ飛脚を以差越相達

但、御産物方手代祝金十郎、濱崎へ被召仕候処、平戸領へ着船、同所へ陸路差越候由也

今般 御武運御長久御国内御領中之人民為安全、府中八幡宮御本社從 御膝元御改建被遊候付、拜殿・神樂殿・矢大臣門ニ至、為改建分限相当令寄附候事故、田代・怡土・松浦御領之者志し之向ハ物之多少ニ不拘令寄附候義、被差免候間、其段御領中へ可相触旨、宮内殿へ八月廿八日付を以被仰下

田代并松浦・怡土両郡之御借財払潰且御領産盛榮方之義ニ付、別紙之通被仰出、乍恐御尤千万之次第令感服、役々一致ニ踏はまり何分御主向御仕遂ニ至り候様精力可仕旨、典膳殿へ九月四日付を以被仰下

戸田頼母殿立儲參判使として朝鮮へ被差渡置候処、手数向相濟昨夜帰着有之候段、宮内殿へ八月十日付を以被仰下
今度於濱崎銀山御取開且於同所最前之通銀札取遣方、状末之通被仰出候間、右御主向御仕遂ニ至候様、段々申談周旋可仕旨、典膳殿へ九月四日付を以被仰下

但、御状未被仰出之御書面、別ニ記

当末年御貢米積、御勘定奉行所へ九月四日付を以申來

御国送渡高

一米老万七千九百八十一俵一斗五合五勺

内三百三十俵

内八十俵

御膳米

同百八十俵

御膳糶

同七十俵 御差足米

同千七百俵 餅米

内三千俵 御膳餅米ニノ

但、餅米之儀、近年御入用多、本文之高送渡方注

文有之候処、昨年八両郡米之内を以、貳百俵振替

送渡ニ相成候へ共、当年も八田代米も送渡ニノ

同壹万五千九百五十一俵一斗五合

平米ニノ

内書ノ

外ニ
大豆三百四十俵

小豆十俵

内三俵御膳小豆ニノ

御膳米今程十五俵之残り相成、右ニ而来月一盃八筭々御

事欠ニも至間敷相見候得共、一番仕出及延引候ハ、博多

通も貳三十俵之間、来月中旬迄ニ御国達ニ至候様、送渡方

御勘定奉行所も九月二日付を以申来

御目付・在方吟味兼古川裕作義、此節御勘定吟味・郡方吟味役
をも被仰付越候段、届有之

九月廿一日 晴天

宿村江悪病入込候付、氏神ニをみて二夜三日之祈禱執行仕度、

庄屋も願出候段、手代中申出、聞届

宮浦東村之内実松へ行倒もの有之段庄屋も以書付案内申出候付、

目付役永瀬大五郎見分差越候処、乞食行倒無相違相見、外ニ訝

敷義無之旨申出候付、先例之通仮埋取計建札いたし置候様、手

代中へ相達

九月廿二日 晴天

御主法方会日ニ付、奥役同然罷出

同廿三日 晴天

御用日ニ付、会席へ罷出、財部・古川も出勤有之、奥役不断所

ニをみて御用向申談

義倉糶本俵ニノ六百貳十八俵半、三郷村々江詰替拝借申付候付、

手代役門司金十郎・受払留役大石多兵衛・目付役助勤門司範造

立会、蔵出取計候段届申出、尤義倉致皆済候付、錠鑰面役所へ

預ケ置候段申出

園部下村大工森右衛門・奈良田村大工佐平次・田代上町大工清

吉・曾根崎村大工佐右衛門元助・今泉村大工惣右衛門義、御主

法方新規取建ニ付、墨棟梁申付候間、御普請掛役を以相達候様、

手代中へ口達

御主法方へ米壹万俵銀札を以買上之儀、三郷大庄屋・農政江及

諭達候様、手代中江相達 但、奥役心付也

下モ村水腐之田坪切払之儀、ケ所付を以庄屋共も願出候付、先

例之通役々致見分候様相達

、今晚廿三日夜二付、例之通月待いたし、奥役・お民との・大石多兵衛入来

九月廿四日 晴天

、使番幸助義、緒方連へ相附、諸富江差越置候処、留守病人有之、引替之義令内願候段手代中へ申出候付、代り使番御雇佐次郎差越候様申付、直ニ今日出立いたし候段申出

九月廿五日 晴天

、今朝、奥役入来有之
、財部・古川入来有之
、一昨日相達置候御主法方へ郷方へ米壹万俵銀札にて買上之儀及諭達、押詰六千式百俵、左之通ニ御売上可仕旨申出候段手代中申出候折柄、奥役・財部・古川、表家へ寄合中二付、大庄屋・農政・年功庄屋之内、机之間へ呼出、何れも当時之場合令勘弁、懇ニ令示談、奇特之心得及会釈、此上尺衆議七千俵高売上之儀、令心配候様、奥役・拙者へ申達
一米式千式百俵余

但、義倉米作略を以当時売米、来春ニ掛御買戻御蔵詰之

積ニノ

一同千俵

但、三郷へ米三千俵御買上米当年へ千俵ツ、三ヶ年二貫

立候筈之処、売米ニノ

一米三千俵

但、当売米之積二入

ノ米六千式百俵

如此申出候を今八百俵相増、七千俵之高御売上之儀申達候処、御受申出

九月廿六日 晴天

、唐坊莊之介、今日卯下刻出立有之、見送りとして若党差出
、辛子旅出勝手売差免候旨、在町へ相触候様、手代中江相達
、大石淵之介義、父五左衛門致病死忌中届申出、大石良輔祖父之忌届申出
、御国光清寺上京掛寄郷、今日致着候段為届入来、致対面
、光清寺義、本堂建立入料不手届成就不致候処、御用場之義其俣難相濟、其上今度血誓として上京彼是令難渋候付、爰元并松浦・怡土ニ而相对勸化御免之儀、典膳殿へ被仰下
、おたつ、筑後大深村淡島神社へ参詣仕也、奥家内も被相越

同廿七日 晴天

御普請役

金式百疋

河野曆太郎殿

右長崎御用相濟歸府、今酉之刻過着有之候付、御音物宿亭主を以差出置、拙者義肩衣着見廻ニ罷越致対面、御礼等被申聞、就右、供廻例之通也

玄関番前川彦兵衛、鍵持小人栄助罷出

勤向夜ニ入候付、供廻リハ郷夫迄飯為給也

内山病氣ニ付、今朝見廻ニ罷越

九月廿八日 雨天昼曇

御主法方会日ニ候得共、今日致不參

長崎白蠟、異人渡直段三匁八分ニ引下ケ、蠟箱代別段ニ買入相止候由、長崎役方も御主法方へ申來

御貢米仕出之時節ニ差臨候処、是迄ハ佐嘉領諸富ニ而船積致來候へ共、当春已來大坂廻米積船を諸富津ハ佐嘉町人共引留候一件今以掛合中ニ付、当年之儀ハ久留米領若津にて致船積、同所先後屋伊作へ船宿世話方申付度及評議候付、船差引後見橋本栄之助義、右示談之為、若津へ差越候様、手代中へ相達

右ニ付、諸富赤穂屋武平治義、大阪廻米積船一件掛合中ニ付、当年之義ハ先ツ於若津積方取計、同所先後屋伊作へ世話為致候間、左様相心得可申、追而佐嘉懸合折合候上ハ其節猶又可及沙汰旨、武平治召呼、留役中も差合候様、手代中へ相達

九月廿九日 晴天

御国へ急送之御膳米三十俵、三郷も賄方へ相納候付、手代役・留役・目付役立会見分相請取候段届申出、御米品位差出候付、遂見分

加布里東屋政右衛門、御借金口一件ニ付、日田元も中も催促書状相達

御産物方手代祝金十郎義、濱崎鉄山御取開且札物通用御主法筋ニ付、濱崎へ被召仕、在留中御勘定手代兼勤被仰付、去ル廿一日彼地着船御用之品ニ依、当所へ罷越、今夜致着候付入來、致対面

但、旅宿之義、長崎屋へ手当申付有之候処、御茶屋財部万

右衛門方へ今晚寄宿也

兆徳院様御忌日ニ候へ共、昨日も痰氣強、御寺詣相見合

同晦日 晴天

奈良田村へ昨夜天火落ニ付、氏神ニをゐて鎮火之祈禱執行仕度旨願出、聞届